

調査による活動事例一覧

子ども・若者が主体的に参画する活動事例について、関係機関・団体に依頼して調査を実施しました。その結果回答をいただいた 83 事例(全 93 事例から取材事例 10 を除いたもの)をすべて掲載しました。表の見方は P.55 にあります。



1 「子ども・若者が主体的に参画した事業・活動について」の調査結果について

(1) はじめに

神奈川県青少年指導者養成協議会(以後協議会)では平成 16 年 4 月に「かながわ青少年支援・指導者育成指針」を施行しました。その中で青少年育成の視点として、青少年の「多様な体験学習の促進」「主体的な参画の促進」「社会的自立の支援」を掲げています。この3つの視点に立った青少年活動の活性化を目指し、青少年支援・指導者がどのように活動を立ち上げ、子ども・若者と関わればよいのかを明らかにするための事例集作成を目指しました。そのために各関係機関・団体等に調査を依頼し御回答いただきました。そして御回答をいただいた事例を分類した表が、P.110 の活動事例分類一覧表です。

(2) 調査方法・対象について

郵送・メール・FAX にて調査用紙を送り、FAX・メールで回答していただきました。

調査対象は、協議会会員及び紹介団体、専門部会委員の紹介団体・個人、インターネット等で検索して該当すると思われる団体等です。

(3) 調査結果について

調査結果は、取材事例も含めると回答団体数 52 (県内 48、県外 4)、事例数 93 (県内 88、県外 5) でした。回答団体のうち行政機関が 28 団体、行政機関の関連組織が 5 団体、県立高等学校 1、民間団体が 18 団体です。

行政機関は、県内市町村 22、横浜市の 4 区、滋賀県 1、町田市 1 です。行政機関の関連組織は、(財)藤沢市青少年協会、(社)神奈川県青少年協会、川崎市子ども夢パーク、横浜市青少年交流センター、神奈川の教育を推進する県民会議です。

民間の 18 団体の内訳を見てもみますと、神奈川県子ども会連絡協議会 1、市子ども会連絡協議会 2、ジュニアリーダーズクラブ・シニアリーダーズクラブ 2、ボーイスカウト 1、ガールスカウト 1、私立高等学校 1、他 10 でした。

表 1 回答団体数

計	県内	県外
52	48	4

表 2 回答団体内訳

行政機関	行政機関の関連組織	県立高等学校	民間団体
28	5	1	18

調査期間は短かったのですが、93 事例の回答(取材事例含む)をいただきました。内容別に事例を分類してみますと表 3 になります。キャンプ、研修がそれぞれ各 13 事例と最も多く、それ以外に多いのが交流が 11 事例、成人式 10 事例でした。「その他」の内容は、ボランティア体験活動、イベント、冒険遊び場が各 2 事例、宿泊体験、自然体験、海洋体験、うどん作り体験、広場あそび、子どもの遊び、ナイトウォーク、レクリエーションゲーム、きもだめし、演劇、人形劇、ライブ、ダンス、講座、国際理解、活動発表会、情報誌発行、店舗経営、電話相談、フリースペースが各 1 事例です。

行政機関に主に調査をお願いしたこともあり、特に行政機関の主催事業または委託事業が多くなっています。またそれ以外の事例で大きな組織での活動が主で、地域での小さな活動や草の根的な活動は少なくなっています。単位子ども会活動などのもっと身近な活動事例を発掘したかったところです。

表 3 回答事例 内容別内訳

内 容	キ ャ ン プ	研 修	交 流	成 人 式	ま つ り	子 ど も 会 議	ス ポ ツ	地 域 活 動	そ の 他	合 計
事 例 数	13	13	11	10	6	6	4	4	26	93

企画・立案は誰がしたのかを内容別で見たものが表 4 です。10 事例以上あるものについて見てみますと、どの内容も青少年と大人による事例が多くなっています。しかしキャンプ、成人式について青少年だけで企画・立案した事例の割合がやや多く、また大人だけによるものはありません。研修、交流については青少年だけによる企画・立案の事例が少なくなっています。全体では青少年が企画・立案に関わっているものが 93 事例中 75 事例になっています。

表 5 は、『「参画の段階」の説明』(P.56)を参考に回答していただいた結果です。参画の段階が 6 ~ 8 になっている事例は事業・活動に青少年がより主体的に参画しているもので、78 事例あります。表 4 と表 5 は、ある程度連動している結果だと言えます。

表 4 企画・立案

	キャンプ	研修	交流	成人式	まつり	子ども会議	スポーツ	地域活動	その他	計
青少年	5	3	2	4	2	1	1	2	6	26
青少年と大人	8	7	7	6	2	2	1	1	15	49
大人	0	3	2	0	2	3	2	1	5	18

表 5 参画の段階別内訳

参画の段階	1	2	3	4	5	6	6と7	7	7.5	8
事例数	0	0	1	9	5	45	2	19	1	11

活動主体というのは実際の事業・活動の場面で中心になって運営をした側のことです。青少年が主体的に参画している事業・活動の事例ですから、活動主体は実行委員会(青少年)、ジュニアリーダー・シニアリーダー、青少年グループ、運営委員会(青少年)、高校生などで、青少年が多くなっています。しかし市子ども会連絡協議会、青少年指導員連絡協議会、行政、青少年育成団体、NPO(公益性のある非営利団体、市民活動団体等)、NPO 法人(NPO のうち法人格を取得している団体)、社団法人などで、大人が活動主体になっている事例もあります。これらは青少年が何らかの形で運営に関わっている事例ということになります。

企画・立案との関連性を見ると、ジュニアリーダー・シニアリーダーや青少年グループでは青少年による企画・立案の事例が多く占めています。

表 6 活動主体と企画・立案

活動主体	事例数	企画・立案		
		青少年	青少年と大人	大人
実行委員会(青少年)	22	6	14	2
ジュニアリーダー シニアリーダー	15	10	4	1
青少年グループ	13	9	4	
子ども会(市子ども会連絡協議会、単位子ども会等)	12	1	4	7
行政	7		6	1
市民活動団体	5		3	2
青少年指導員連絡協議会	4		4	
青少年育成団体	3		1	2
運営委員会(青少年)	3		2	1
高校生	2		2	
NPO 法人	2		1	1
ボーイスカウト	1		1	
社団法人	2		1	1
ガールスカウト	1		1	
青少年団体	1		1	

2 調査結果のまとめ ～提言に変えて～

子ども・若者が主体的に参画した活動事例として、93 事例が集まってきました。調査対象の多くが行政機関及び関係団体であることもあり、行政機関の主催事業や委託事業の事例が多くなっています。これらの事例は基本的には大人が仕掛けたもの(参画の段階 4～6)です。子ども・若者が主体的に取りかかったもの(参画の段階 7,8)は多くありません。子ども・若者が主体的に取りかかった事例はまだ他にもあると考えられますが、今回の調査では多くは集約できませんでした。

時間をかけて地域に根ざした活動を掘り起こせば、さらに身近な事例がまだまだあるのではないかと考えられます。これについては今後の課題とさせていただきます。しかし今回集まってきた事例についても、示唆に富むものは多く、じっくり見ていただければ子ども・若者への大人の関わり方について参考になるでしょう。

特に注目して取材した事例では、必ず活動の中心となっている大人、若者が存在しています。誰にでも同様な子ども・若者との関わり方ができるとは言えませんが、「取材事例紹介」を読んでいただければ、関わり方のエッセンスを見つけることができるでしょう。また若者が何を考え、活動を立ち上げ継続しているのかということも見えてくるのではないかと思います。

例えば P.25 の「子どもによる市民のための情報誌『WAVE 桜』」や P.28 の「チャイルドライン千葉子ども電話 若者ライン」では、若者が主体的に取りかかって活動している事例ですが、そこにはいろいろな方法で彼らを支えている大人がいます。この辺りは P.30 からの Q&A をお読みいただきたいと思います。物理的な支援だけでなく、心の支えになっている部分が大きいのではないかと思います。若者が活動の中で壁

にぶつかった際に、それを支えていくためには日常的な人間関係ができていて、気軽に声をかけたりかけられたりする関係でないと難しいでしょう。また若者から何かを言い出すまで待つという姿勢も必要です。特に精神的に不安定な思春期にある若者とつきあっていくには、そういうきめ細かい配慮が必要となります。

また P.33 の「町田市子どもセンターばあん 子ども委員会」では、「ばあん」建設時から開設されて以降も、温かく見守り続けている地域住民(大人たち)の存在は、欠かせないものであることがわかります。大人の役割は多様で、直接子ども・若者と関わらなくても支援する方法があることを示唆していると言えます。そしてこのような施設には「人」(施設職員)がいて、初めて若者たちが自由に活動できるようになるということもわかります。このような「人」は、若者と同じ目線になることができ、ある時は一緒にはしゃぎ、騒ぎ、楽しみ、またある時は厳しく若者を叱ることができる「人」です。

Q&A や若者たちに執筆していただいた文章を読むと、若者たちが活動を通して自分の変化や成長に気づき、目的意識を持って活動を継続していることがわかります。そして社会へ出ていくための自覚を育み、自立のきっかけにしています。

子ども・若者と関わる際に、指導的関わりが必要だと思いますが、支援的な関わりがより必要になってきています。特に子ども・若者の主体的な参画活動を促進していくためには、どちらかということ子ども・若者の持っているものを引き出し、子ども・若者が自らの力で活動できるようにすることが大切です。そしてその支援的関わりが一律でなく、多様であることがこの事例集の中で明らかになっています。

さてこの章に出てくる調査による活動事例を見ていく際に、気をつけていただきたい点は、「参画の段階」の数字の高低にはあまりこだわらない方がよいということです。子ども・若者の個人あるいは団体の成長の段階によって、それは変わってくるものです。大切なことは子ども・若者が自らその活動を選び取って、これらの活動に関わったのかどうかです。そして子ども・若者がこの活動を通じて、何を学びどう変わったのかということが最も重要です。

子ども・若者が主体的に参画する活動における大人の役割は、子ども・若者のそれぞれの段階に応じて支援していくことです。支援にもいろいろな方法があります。活動を立ち上げる際に子ども・若者が何を考え、どんなことをしてみたいのかということを引き出す役割、あるいは活動の中でうまくいかなくてモチベーションが下がったときなどにそれを支える役割もあります。また活動するための会場や資金の確保など、大人でできないものもあるかもしれません。そういうところで大人が支援していくことが必要なのです。あくまで大人は脇役であり、子ども・若者が主役なのです。

このように子ども・若者が主体的に参画する活動が、各地域で盛んに行われることで、子ども・若者の体験学習の機会が増え、彼らが社会的に自立するきっかけになることでしょう。



3 活動事例83

活動事例の表の見方(下の表は例です)

活動事例分類一覧表(P.110)の分類1と分類2

分類1(内容)は事業名をカテゴリー化
 分類2(活動主体)は団体名をカテゴリー化

参画の段階の解説を参考に、自己評価した

参画の段階につけた自己評価の数字の理由

事業名

分類	内容 活動主体	キャンプ 青少年	チャレンジ ザ キャンプ in 丹沢		
参画の段階	6	その理由	大人が主催者であるが、企画の段階から子どもたちの考えを取り入れ、大人と相談しながら最終的に決定したから		
団体名	愛甲サッカークラブ	E-Mail	なし	URL なし	
代表者名	愛甲 太郎		-	スタッフ	大人2人、高校生3人
実施時期	夏休み 4泊5日	参加人数	20人(大人2、高校生3、小学生15)	対象	愛甲サッカークラブの小学校5～6年生 年齢 10～12歳
他団体・組織との連携	かながわ森林づくり公社、清川青少年の家		活動資金	ニッセイ財団の助成金50万円を使ってキャンプ道具を購入、食費、交通費、宿泊費等は親に負担してもらった。	
趣 旨	自分のことは自分でしなければならないキャンプ生活を通して、日常では体験できないことを体験し、自立心を養い生活力を身につける。キャンプの楽しさ・苦しさを味わう。				
実施することになったきっかけ	子どもたちのキャンプをしてみたいという声				
事業(活動)内容	丹沢山中の登山、森林ボランティア、キャンプ。1泊目は札掛森の家、2、3泊目は山中にキャンプ、4泊目は清川青少年の家。				
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	登山計画、食糧計画、キャンププログラムについて、子どもが中心に考え、大人と一緒に決定した。				
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他
	愛甲サッカークラブ	青少年と大人	(ここに詳細な関わり方がある)		
できるだけ子どもたちに考えさせることで、やる気を損なわないように務めた。しかし登山の経験のない子どもたちに計画を立てさせると、無謀なものになるので、それを修正して安全な計画にするのが大変だった。登山経験のある高校生のボランティアの手配や資金繰りについて大人が進めた。					

活動事例分類一覧表(P.110)の分類3

分類3(企画立案)は、「青少年」「大人」「青少年と大人」から選択回答

大人の関わり方に下記の選択肢から複数回答してもらった。

- 基本的には口出しせず、青少年が事業・活動を進めるのを見守った。
- 青少年が事業・活動を進める中で、青少年に悩みなどで相談を受けたときに、話を聞き相談に乗った。
- 青少年が事業・活動を進めていくときに重要な場面で助言した。
- 会場、資金、広報等について手配した。
- 安全管理について配慮した。
- その他

「参画の段階」の説明

参画の段階	説明	大人と子どもの関係	事例
8	子どもが主体的に取りかかり、大人と一緒に決定する。	子ども・若者が自分たちで発案して大人を巻き込んでいるが最後まで自分たちが責任を持つ活動である。	<ul style="list-style-type: none"> ・例えばネパールに学校を作るための募金活動を企画し、日本のNPOを巻き込んで、現地の受け皿を探してもらい、募金で集まった資金を送ってもらう。 ・学校の文化祭でクラスとか部活で子どもたちが活動するときに、先生を巻き込んでしまうものである。演劇やスタンプをやるときに、先生に役割を与えて、盛り上げる活動である。
7	子どもが主体的に取りかかり、子どもが指揮する。	子どもたちが何のためにやるかを自分たちで決めて、自分たちで分担をして活動をする。大人がほとんど役割がなくて腕を組んでみてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞でネパールのNPOが現地で学校づくりをしているのを知り、募金活動をして、集まった資金をNPOに送る。 ・ストリートミュージシャン、クラブ文化、ネット文化など、若者が勝手に企画をしてやってみて自分たちで評価をしているもの。 ・親の目の届かないところで、好き勝手に子どもたちが遊んでいる。 ・学校の文化祭でクラスとか部活で子どもたちが活動する。
6	大人が仕かけ、子どもと一緒に決定する。	大人が子どもに投げかけて、子どもと話し合いをして納得の上で決めていく。	子どもたちが何のために募金をするのかがわかっていて、活動の方法・場所等について子どもと大人で話し合って決め、募金活動をする。
5	子どもが大人から意見を求められ、情報を与えられる。	決定するのは大人であるが、子どもは意見が言える。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが何のために募金をするのかがわかっていて、募金活動の方法・場所等について子どもは意見を言えるが、決定は大人がするような募金活動。 ・「子ども議会」「青年議会」などで、子どもが事前の質問まで考え、終わった後大人がフォローをして実行する。
4	子どもは仕事を割り当てられるが、情報は与えられている。	大人が計画をして、子どもは役割を果たしている。最終決定は大人の側にあり、子どもに意見は聞いてない。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが何のために募金をするのかがわかっていて、募金活動している。 ・学校で言えば当番とか日直とか役割を決められたもの。 ・「子ども議会」「青年議会」などで、終わった後大人がフォローをして実行する。 ・地域の伝統行事とか子どもとやっている歌舞伎など。
3	形だけの参画	子どもは形だけは参加しているが、実は参加していない。	「子ども議会」「青年議会」などで、事前の質問にはシナリオがあり、終わった後に何もしない。
2	お飾り参画	子どもは何しているかわからないが、ほしいものをもらえるのでそこにいる。	大人の募金活動、チャリティーでも子どもがここにいてくれたら絵になるというので子どもに来てもらう。子どもに募金箱を持たせているが、子どもは何しているかわからない。けれども絵がほしいからそこにいるという状態。
1	操り参画	大人がやっているのにもかわらなく、子どもがやったということにするものである。	幼稚園の子どもに絵を描かせる。それをまとめて絵本にする。子どもが作ったとって売り出す。子どもは絵を描いただけで、大人が編集をして勝手に作った絵本である。

『子どもの参画』（ロジャー・ハート、萌文社）の「参画のはしご」を参考に事例作成

< キャンプ >

分類	内容		キャンプ		平塚市シニア・リーダーズクラブ大イベント「キャンプ」		
	活動主体		シニアリーダー				
参画の段階	8		その理由	職員も参加者の1人としてプログラムへの参加を勧められたりする。			
団体名	平塚市シニア・リーダーズクラブ	E-Mail	なし		URL なし		
代表者名	H16年度 会長 鈴木 伸明		0463-32-7029 平塚市市民部 青少年課	スタッフ	平塚市シニア・リーダーズクラブ生18名程度		
実施時期	夏休みの土日1泊	参加人数	40人 (募集人数)	対 象	市内在住の小学4年～6年生の児童	年 齢	9～12歳
他団体・組織との連携	平塚市青少年課・平塚市びわ青少年の家(青少年課管轄)		活動資金	参加費1人2,300円 この中から現地までの交通費、食材代、シートクリーニング代などをまかなう。			
趣 旨	団体生活の楽しさ・難しさを体験してもらい、今後に役立ててもらう。						
実施することになったきっかけ	本会は平塚市ジュニア・リーダーズクラブの卒業生が自主的に集まった会で、ジュニア・リーダー時代に培った技術や精神を参考に、小学生に対するキャンプを行うことで自分達の活動の活性や、小学生へ集団生活の喜びを理解して欲しいと始めた。						
事業(活動)内容	1泊の宿泊に伴い、班での役割分担決め、子ども達だけで食材の購入、路線バスでの移動、野外炊事、入浴などの集団生活を中心に行う。宿泊はテントで通常行う。(本年度は、場所の関係上宿泊施設での宿泊となった)						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	平塚市シニア・リーダーズクラブ生が募集・企画・立案等全てを行う。行政側は募集する際の事務処理や安全管理のみを行う。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	平塚市シニア・リーダーズクラブ	青少年	(広報のみ)				
基本的に行政側は見守るだけで、プログラム自体は一切クラブ生に任せている。参加者募集の際には広報へ掲載のための事務を行政側が行うが、施設の予約や資金繰り、小学生の安全管理等も全てクラブ生の方で行う。							

分類	内容		キャンプ		チャレンジキャンプ in びわ 2003		
	活動主体		行政				
参画の段階	6		その理由	キャンプにおけるすべての内容などは子どもたちの意見をできるだけ尊重し、大人と相談しながら最終的に決定したから			
団体名	平塚市市民部 青少年課	E-Mail	なし		URL なし		
代表者名	鈴木 通明		0463-59-0871 平塚市びわ 青少年の家	スタッフ	大人11人 大学生20人 高校生4人		
実施時期	夏休み1泊2日	参加人数	63人(職員・スタッフ35人、参加者28人)	対 象	全小学校4～6年生	年 齢	9～12歳
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	食費、交通費などは各参加者に負担していただき、その他必要物品は市の公費より支出			
趣 旨	自然に囲まれたびわ青少年の家を舞台に子どもたちが自ら計画を立て、普段の生活では体験することのできない時間や空間を共有することを通じて子どもたちの自主性、協調性及び創造性を養うことを目的として実施する。						
実施することになったきっかけ	特になし						
事業(活動)内容	びわ青少年の家におけるキャンプ、内容は各班ごとに決定						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	1泊2日の間のプログラム、食事などすべて子どもが中心に考え、スタッフと一緒に決定。しかし、安全面などのことを考え、最低限度のルールはスタッフが決定						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	平塚市市民部青少年課	青少年と大人					
子どもたちがすべてのプログラムを決め、実行する中で、自主性や協調性などを養ってもらうのが基本的な目的なので、プログラムなどを決めていく際に、どこまでスタッフの方で助言や注意をしてよいのかの判断が難しかった。ボランティアスタッフの手配や必要物品の準備などについて大人が進めた。							

< キャンプ >

分類	内容		キャンプ		中学生広場		
	活動主体		行政				
参画の段階	6		その理由	大人が主催者であるが、企画の段階から子どもたちの考えを取り入れ、大人と相談しながら最終的に決定したから			
団体名	秦野市青少年課	E-Mail	seisyoun@city.hadano.kanagawa.jp		URL なし		
代表者名			0463-81-7011 秦野市青少年課	スタッフ	秦野市青少年指導員連絡協議会・秦野市子ども会育成連絡協議会・秦野リーダー研修		
実施時期	夏休み	参加人数	30人	対象	市内在住の中学生	年齢	13～15歳
他団体・組織との連携	秦野市青少年指導員連絡協議会・秦野市子ども会育成連絡協議会・秦野リーダー研修		活動資金		公費及び参加者負担金		
趣 旨	中学生の成長段階にあった活動を通して、自主性や創造性を養うとともに、ジュニアリーダーとしての芽を育て、子ども会活動や地域活動に積極的に参加する中学生を養成する。						
実施することになったきっかけ	特になし						
事業(活動)内容	秦野市の国内姉妹都市である長野県諏訪市の中学生との交流キャンプ						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンププログラムについて、高校生を中心に企画し運営						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	秦野市教育委員会		青少年と大人				
高校生のボランティアを中心にプログラムを企画、運営。また、キャンプ活動中においても、直接の指導は高校生が行い、大人については、主に安全理解に努めた。							

分類	内容		キャンプ		小学生広場		
	活動主体		行政				
参画の段階	6		その理由	大人が主催者であるが、企画の段階から子どもたちの考えを取り入れ、大人と相談しながら決定したから			
団体名	秦野市青少年課	E-Mail	seisyoun@city.hadano.kanagawa.jp		URL なし		
代表者名			0463-81-7011 秦野市青少年課	スタッフ	高校生10人、大人10人		
実施時期	基本的に夏休み期間 1泊2日または2泊3日	参加人数	最大40人	対象	市内在住の小学5,6年生	年齢	10～12歳
他団体・組織との連携	ジュニアリーダー研修クラブ、秦野市子ども会育成連絡協議会、秦野市青少年指導員連絡協議会		活動資金		公費及び参加者負担金(食糧費、傷害保険加入費など)		
趣 旨	市内の小学生が様々な集団活動を通じて自主的に活動し、多くの体験に基づいた学習をすることにより、地域のリーダーとしての知識や技術を習得する。						
実施することになったきっかけ	特になし						
事業(活動)内容	丹沢の自然の中でのキャンプ						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンププログラムについて、大人が仕掛け子どもの意見を聞き、決定した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	秦野市教育委員会		青少年と大人				
できるだけ小学生に考えてもらうようにしたが、小学生のみでプログラムを考えるには難しいため、高校生のボランティアを中心にプログラムを作成した。またキャンプ活動についても直接の指導等については高校生が行い、大人については安全管理等に努めた。							

分類	内容	キャンプ		秦子連リーダー交流キャンプ			
	活動主体	子ども会					
参画の段階	6	その理由	特になし				
団体名	リーダー交流キャンプ 実行委員会	E-Mail	seisyou@city.hadano.kanagawa.jp	URL	なし		
代表者名	信田 和子		0463-81-7011 秦野市青少年課	スタッフ	子ども会育成者、リーダー研修クラブ会員、青少年指導員		
実施時期	16年8月28日～ 8月29日	参加人数	47人	対 象	子ども会リーダー	年 齢	11～12歳
他団体・組織との連携	リーダー研修クラブ	活動資金	事業予算と会費				
趣 旨	単位子ども会のリーダー交流						
実施することになったきっかけ	子どもたちの企画で実施したいことだった。						
事業(活動)内容	くずは野外センターにて、テント設営・野外炊飯 1泊2日 野外活動						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	内容(プログラム)・募集案内・運営について、子ども達で企画・運営し、大人が補助した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	秦野市子ども会育成連絡協議会	青少年と大人					
できるだけ子ども達に考えさせることで自主性と達成感を体験させることを目的に協力した。キャンプ経験の少ない子ども達であったためか発想に限界があったので、リーダー研修クラブ(高校生)に助言・援助をお願いした。それでも足りないところを大人が補助した。							

分類	内容	キャンプ		ジュニアリーダーキャンプ IN 七沢			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	7	その理由	子どもたちが主催者であるため、主体的に取り組んだ。				
団体名	JLC・OF・あやせ	E-Mail	なし		URL	なし	
代表者名	渡辺翔太		0467-76-5998	スタッフ	高校生3人、中学生2人		
実施時期	夏休み2泊3日	参加人数	16人(大人8、高校生5、中学生3)	対 象	ジュニアリーダー	年 齢	12～17歳
他団体・組織との連携	綾瀬市子ども会育成連絡協議会	活動資金	JLC・OF・あやせ予算より支出				
趣 旨	ジュニアリーダーとして子ども会の発展のためにゲーム指導等の技術を高める。						
実施することになったきっかけ	実施することになったきっかけ:ゲーム指導等の技術向上を図るため						
事業(活動)内容	1泊目、2泊目ともに厚木市七沢弁天の森キャンプ場に宿泊するキャンプ全般						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	キャンププログラムについて、子どもたちが中心に考え決定した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	JLC・OF・あやせ	青少年					
プログラムの進行を見守った。 会場の予約、文書の発送を行った。 けがをしないように安全に配慮した。							

< キャンプ >

分類	内容	キャンプ		第10回あおばサマーキャンプ			
	活動主体	実行委員会					
参画の段階	7	その理由	「参画のはしご」解説、大人と子どもの関係の記載文を勧察した。				
団体名	あおばサマーキャンプ 実行委員会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	事務局 青葉区役所 地域振興課	045-978-2295	スタッフ	青葉レクリエーションリーダー倶楽部17人、青少年指導員4人、 行政職員2人、看護師1人			
実施時期	夏休み3泊4日	参加人数	83人	対象	青葉区内在住の児童 4年生～6年生	年齢	9～12歳
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	特になし			
趣 旨	野外活動を中心とした共同生活を通じて、自発的に活動に取り組み、学校や学年を超えた仲間づくりの中で協調性を育む						
実施することになったきっかけ	青葉区役所青少年リーダー育成事業による						
事業(活動)内容	国立那須甲子少年自然の家宿泊(1泊目のみテント泊)野外炊事、イワナのつかみ取り、肝試し、山登り、キャンプファイヤー等						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	青葉区レクリエーションリーダー倶楽部という青少年団体が主体となり、キャンププログラムの企画・立案を行った。青少年指導員、行政は前者のバックアップとなった。(上記3組織でキャンプ実行委員会を組織)						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	青葉区	青少年	～				
	青少年のメンバーが極力自主的に取り組めるように大人のメンバーはサポート役に徹しました。またプログラムの立案・実行に専念できるように物品を手配し、施設との連絡などの庶務関係は行政が担当しました。						

分類	内容	キャンプ		鶴見区子どもサマーキャンプ			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	4	その理由	ジュニアリーダーが自分達で決め、分担して活動している。大人はスタッフの食事と安全への気配りをしている。				
団体名	鶴見区ジュニア リーダーズクラブ	E-Mail	haru.ku@axel.ocn.ne.jp	URL	なし		
代表者名	工藤 春治	045-510-1691 鶴見区 地域振興課	スタッフ	大人17人、中高生13人			
実施時期	夏休み 2泊3日	参加人数	70人	対象	区内小学校4～6年生	年齢	9～12歳
他団体・組織との連携	鶴見区地域振興課、鶴見区子ども育成会連絡協議会、(社)横浜市レクリエーション協会、赤城キャンプ場		活動資金	区役所からの助成金および参加者負担			
趣 旨	1. キャンプ生活を通して色々なことを体験し、自立心を養い生活力を身につける。 2. ジュニアリーダーの育成						
実施することになったきっかけ	区役所からの依頼						
事業(活動)内容	赤城キャンプ場でのキャンプ						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンププログラムについてジュニアリーダーが中心に考え、大人はサポートとして活動						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	鶴見区ジュニアリーダーズクラブ	青少年と大人					
	1. ジュニアリーダー自身に考えさせることで、やる気につながるよう務めた。 2. レクを進める上で、参加した子どもたちがハードにならないように計画してもらった。 3. キャンプ場の手配、バスの手配は大人が進めた。						

< キャンプ >

分類	内容		キャンプ		アドベンチャーキャンプ in 赤城			
	活動主体		実行委員会					
参画の段階	6		その理由	実行委員会が主催者であるが、企画の段階から子どもたちが中心に考え、運営についても子どもたち自身があたることを実行委員会で決定している。				
団体名	アドベンチャーキャンプ実行委員会		E-Mail	なし		URL		なし
代表者名	鈴木 耐子		045-367-5694 横浜市瀬谷区 地域振興課	スタッフ	中学生12人、高校生3人、シニアリーダー6人、大人4人			
実施時期	夏休み 2泊3日 (8月1日～3日)		参加人数	50人	対象	瀬谷区内在住・在学の 小学5年生～中学生	年齢	10～15歳
他団体・組織との連携	瀬谷区役所との共催		活動資金	参加費、瀬谷区役所補助金、瀬谷区子供会育成連絡会補助金				
趣 旨	キャンプを通して、小中学生に自然とのふれあい、ウォークラリー、レクリエーションでの仲間づくり、自炊する野外生活の楽しさを体験するとともに、共同生活の中で自主性と社会性を培います。							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	横浜市少年自然の家赤城林間学園(2泊)での、往復大型バスと自家用車を利用した共同生活、事前研修会(2日間)と事後研修会を実施し、参加者のコミュニケーションをつくりました。キャンプでは、レクリエーション、肝試し、運動会、ウォークラリー、クラフト、宝さがし、キャンプファイヤーなどのプログラムも実施しました。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンププログラムについて、実行委員会構成メンバーのジュニアリーダースクラブが中心に考え、その運営についても子ども達自身が実行することとしており、実行委員会で決定しました。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他			
	瀬谷区	青少年と大人	-					
・28回目となる事業であり、ジュニアリーダースクラブも継続して関わっており意義は理解しています。 ・広報による参加者募集や会議会場の確保、会計、宿泊場所、大型バスの手配等は大人が受け持ちますが、その他は、子ども達自身が企画しています。								

分類	内容		キャンプ		青少年キャンプ			
	活動主体		ジュニアリーダー					
参画の段階	8		その理由	大磯町教育委員会が主催し、大磯町ジュニアリーダーズクラブが計画立案していく。				
団体名	大磯町ジュニアリーダーズクラブ		E-Mail	なし		URL		なし
代表者名	大磯町教育委員会		-	スタッフ	大磯町ジュニアリーダーズクラブ、大磯町教育委員会			
実施時期	8月5日～7日		参加人数	36人	対象	小学5年生、6年生	年齢	-
他団体・組織との連携	大磯町教育委員会		活動資金	参加費 1人 6,000円				
趣 旨	集団生活におけるリーダーとしての自主性と自覚を持つ							
実施することになったきっかけ	ジュニアリーダー養成のため							
事業(活動)内容	キャンプを通して、集団生活におけるリーダーとしての自主性と自覚を持つ。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	ジュニアリーダー、中学生以上高校生以下の会員たちがキャンプの計画・立案・指導をしていく。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他			
	大磯町ジュニアリーダーズクラブ、大磯町教育委員会	青少年						
ジュニアリーダーを中心として、自主的に企画・運営を行い子どもたちの野外活動について研修をし、大人はその安全管理に努めた。								

< キャンプ >

分類	内容		キャンプ		大井町子どもキャンプ		
	活動主体		青指協				
参画の段階	6		その理由	特になし			
団体名	大井町 青少年指導員協議会		E-Mail	kyouiku@town.oi.kanagawa.jp	URL なし		
代表者名	大井町教育委員会		0465-85-5016	スタッフ	青少年指導員22人、ジュニアリーダー25人、教育委員会4人		
実施時期	9月に1泊2日	参加人数	108人(指導者を除く)	対象	小学4～6年生	年齢	10～12歳
他団体・組織との連携	神奈川県立足柄ふれあいの村		活動資金	参加費2,500円自己負担			
趣 旨	青少年指導員協議会主催による手作りのキャンプ						
実施することになったきっかけ	野外活動を通して青少年活動を行うため						
事業(活動)内容	ウォークラリー、バームクーヘン作り、火おこし体験、ナイトウォークラリー、キャンプファイヤー						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	参加児童、青少年指導員、ジュニアリーダーと共に班行動を行う。キャンプの企画はジュニアリーダー(中学生)と共に検討・立案した。キャンプ企画は3～4回行う。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	大井町青少年指導員協議会		青少年と大人				
参加児童の面倒は基本的にはジュニアリーダーが責任を持って行い、大人の指導員は必要に応じて助言等をする。							

分類	内容		キャンプ		かもしかキャンプ		
	活動主体		青少年の団体				
参画の段階	7		その理由	キャンプカウンセラーは参加者をファシリテートする役割なので			
団体名	かもしかクラブ		E-Mail	c_kamoshika@yahoo.co.jp	URL http://www8.plala.or.jp/kamoshika/		
代表者名	小島秀行		046-288-2319	スタッフ	構成メンバーは、18歳以上の県内外に住む青少年です。約30人		
実施時期	7月:事前研修1泊2日 8月:本キャンプ7泊8日	参加人数	16人	対象	小学5年生から高校生まで	年齢	10～18歳
他団体・組織との連携	後援:神奈川県、事務局:清川青少年の家		活動資金	クラブ員会費、キャンプ参加費、賛助会員からの賛助金、寄付等			
趣 旨	日常生活とは異なった自然の中で困難な冒険活動を成し遂げるにより、自分自身や他者、そして自然に対する認識を深める。						
実施することになったきっかけ	クラブ自体は、1988年から文部省(現・文科省)により実施されたフロンティアアドベンチャー事業の、神奈川県版にスタッフとして関わったボランティアによって結成されました。その事業の終了後、有志が集まり自分たちで主催していくことになり、現在に至っても毎年1回キャンプを行っています。						
事業(活動)内容	かもしかキャンプは丹沢の山の中で自然と接しながら、また仲間と協力しながら、7泊8日という時間を過ごすキャンプです。テントで生活しながら、自然に親しむゲームをしたり、山登りをしたり、自然の中で一人っきりで過ごしてみる体験などをします。プログラム:バックパッキング、サバイバルテクニック、エコロジープログラム、イニシアチブゲーム、ソロ活動、夜間活動等 プログラムの特徴:冒険プログラムを中心に展開する。自然環境に配慮する為に少人数の班を編成し、班単位で移動型・定住型のキャンプを行う。集団活動において社会性を育成する為に、異年齢の構成員からなる班を編成する。自然・自分・他者について考える時間を作る為に、ソロ活動を取り入れる。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	クラブ・キャンプの企画・運営・活動・準備等、すべてをスタッフがボランティアで行っている。年間を通してキャンプに向けて活動をしている。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	かもしかクラブ		青少年と大人				キャンプカウンセラーは参加者の成長の促進を目標にファシリテーションをした。
1週間以上の長期キャンプなので、スタッフの確保がとて難しい。特に参加者と直接接するキャンプカウンセラーは途中で抜けることができないために、人員の確保が特に難しい。また広報活動が思うようにいかないため応募者が少ない。是非都市部での広報活動をして参加者を広く集めたいと思っている。							

分類	内容		研修		第15回サークルありんこ自主研修会			
	活動主体		青少年の団体					
参画の段階	8		その理由	実施するかどうかの決定を含め、すべての企画運営をサークルありんこで行っている。市子連役員は報告を受け、必要な部分をサポートする体制となっている。				
団体名	ありんこ(大和市子ども会連絡協議会)		E-Mail	なし	URL			なし
代表者名	加藤 周平		046-260-5224 大和市 青少年センター	スタッフ	企画者 = 青年2人、補助 = 大人7人			
実施時期	平成15年7~9月	参加人数	21人	対象	サークルありんこ会員及び前年度自主研修会参加小中学生、市子連	年齢	11~52歳	
他団体・組織との連携	大和市子ども会連絡協議会		活動資金	サークルありんこ年間予算からの支出と参加費				
趣 旨	異年齢との交流や仲間づくりを通して人間関係・社会性を学ぶ、学校や家庭生活では得られない体験を通して社会参加活動、青少年活動への足掛かりとする。							
実施することになったきっかけ	サークルありんこは創設20年以上の歴史のある大和市子連傘下のジュニアリーダーサークルである。自主研修会はその活動の一環として、原則年1回開催している。							
事業(活動)内容	本研修2泊3日(愛川ふれあいの村)、事前・事後研修1日(大和市青少年センター)内容:野外炊事、キャンドルファイヤー、軽スポーツ、レクリエーション、グループワークトレーニング、話し合いなど							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	すべての企画、運営を青少年が行った。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他			
	ありんこ	青少年						
大人(市子連役員、青少年センター職員)は青少年が決めたそれぞれの役割を分担した。基本的には事業視察とスタッフの補助となっている。								

分類	内容		研修		川崎市青少年育成連盟 中高生リーダー研修		
	活動主体		育成会				
参画の段階	6		その理由	研修の企画から当日の運営まで、基本的には中高生リーダー研修委員会の中高生委員が協議をし、必要に応じて大人(指導者)が助言等しながら進めている事業であるから。			
団体名	川崎市青少年育成連盟		E-Mail	なし	URL http:// web-k.jp/ikuren/		
代表者名	中島 忠三		044(733)3951	スタッフ	川崎市青少年育成連盟加盟団体の中・高校生 11人 指導者 5人		
実施時期	1~3月	参加人数	11人 (平成15年度)	対象	川崎市青少年育成連盟加盟団体の中高生	年齢	13~18歳
他団体・組織との連携	川崎市		活動資金	170,000円(川崎市青少年育成連盟事業費)			
趣 旨	青少年育成連盟加盟団体の中高生が、リーダーとしての資質を向上させるため、研修の企画・立案を行い、実施する。						
実施することになったきっかけ	実施することになったきっかけ:育成連盟加盟団体の中高生のリーダーとしての資質を向上させようという意見から。						
事業(活動)内容	川崎市青少年育成連盟中高生リーダー研修委員会にて研修の企画・立案、運営を協議し、研修を実施した。 平成15年度 長野県八ヶ岳少年自然の家にて、立ちかまどづくり、ロープワーク、おやつづくり、ゲーム大会等を実施						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	川崎市青少年育成連盟の中高生が主体となって、リーダーの資質を高めるための研修を自ら企画し、大人(指導者)は必要に応じて助言等をした。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	川崎市青少年育成連盟	青少年と大人					
研修委員ができるだけ主体となって、研修の企画・運営が行えるように配慮した。しかし、中高生の研修委員だけにすべてを任せきりにするのではなく、重要な場面では、指導者がアドバイス・修正を行うことで、研修が安全で実りのあるものになるよう努めた。							

< 研修 >

分類	内容		研修		JL研修「夏キャンプの楽しみ方」		
	活動主体		シニアリーダー				
参画の段階	7		その理由	シニアリーダーが主体的に取りかかり活動したから			
団体名	シニアリーダーズ クラブむげん	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	橋本 加奈子		-	スタッフ	川崎市在住 18歳(高卒年齢)~25歳の会員20人		
実施時期	夏休み2泊3日	参加人数	56人	対象	川崎市子ども会連盟所属 ジュニアリーダー	年齢	12~18歳
他団体・組織との連携	なし		活動資金	川崎市研修委託費15万円、参加者自己負担は交通費・参加費1500円			
趣 旨	夏のキャンプに必要な知識・技術を身につける						
実施することになったきっかけ	年間のジュニアリーダー研修会の一環						
事業(活動)内容	応急処置の講義、キャンプファイヤー、野外炊事、レクリエーションの講義						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	シニアリーダーが計画から当日の運営、講義進行を行った						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	シニアリーダーズクラブむげん	青少年					
基本的にはシニアリーダーが計画し、JLの案内を作成し、準備や当日の運営まで行った。大人は必要書類の確認や研修内容に関して、助言等をした。							

分類	内容		研修		平成15年度ジュニアリーダー・インリーダー研修会		
	活動主体		青指協				
参画の段階	5		その理由	青少年がすべてのプログラムを主体的に運営するには、意識的にも技術的にも未熟のため、必要に応じてサポートした。			
団体名	愛川町青少年指導員 連絡協議会	E-Mail	shogaigakusyu@town.aikawa.kanagawa.jp	URL	http:// www.town.aikawa.kanagawa.jp/		
代表者名	愛川町教育委員会 生涯学習課		(046)285-2111 内線528	スタッフ	大人7人		
実施時期	平成15年6月21日	参加人数	59人(中学生14人、小学生37人、大人8人)	対象	-	年齢	9~15歳
他団体・組織との連携	愛川ふれあいの村		活動資金	町からの委託金			
趣 旨	子ども会活動をサポートするために必要な資質とゲームやレクリエーションの指導技術の向上を図る。						
実施することになったきっかけ	子ども会活動を子ども主体で運営し、活性化させるため						
事業(活動)内容	講話「ジュニアリーダー・インリーダーって何するの」、レクリエーション実習、野外炊事						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	プログラム決定のための事前話し合い、当日の進行、レクリエーション実習での主体的な運営						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	愛川町青少年指導員連絡協議会	青少年と大人			青少年に主体的な活動の場を提供した。		
青少年がすべてのプログラムを主体的に運営するには、意識的にも技術的にも未熟のため、必要に応じてサポートした。							

< 研修 >

分類	内容		研修		平成15年度イン・シ・ジュニアリーター - 合同研修会		
	活動主体		子ども会				
参画の段階	6		その理由		大人が主催者であるが、企画運営はジュニアリーターが中心になって行う。7のレベルが理想であるが、実際はキャンプ中も大人の助けが必要。		
団体名	伊勢原市子ども会育成会連絡協議会	E-Mail	seisyounen@is ehara-city.jp	対象	市内在住中学生(公募7人)、市内子ども会5~6年生37人		
代表者名	市子連会長 石井秀子		0463-94-7171(事務局)	スタッフ	大人(市子連役員)13人、ジュニアリーター(中学生)7人		
実施時期	平成15年7月1日~平成16年3月31日	参加人数	57人(中学生7人、小学生37人、大人13人)		年齢	10歳~15歳	
他団体・組織との連携	伊勢原ジュニアリーダースクラブ、成瀬ジュニアリーダースクラブ		活動資金	市よりジュニアリーター養成事業委託費108,000円、市子連事業費			
趣 旨	実践的な交流活動や体験学習を通して、ジュニアリーターとしてのあるべき姿を学ばせる。						
実施することになったきっかけ	子ども会活動において、大人と子どもの橋渡し役としてジュニアリーターの養成が必要。						
事業(活動)内容	ジュニアリーターは1泊2日のキャンプリーターを務めるため、事前研修4回受講。伊勢原市日向ふれあい学習センターでの1泊2日のキャンプを運営する。キャンプの反省会として、事後研修を1回実施。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンプのプログラム検討や企画をジュニアリーターが考え、大人の助言の中で決めた。キャンプ当日のプログラム運営をジュニアリーターが中心となって行い、大人がその補助をした。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	伊勢原市子ども会育成会連絡協議会		大人				
キャンプ経験のある中学生でも自分で企画するとなると、実施の難しい意見が数多く出た。ジュニアリーターの自主性を重視しながら、安全確保するための助言方法に苦労した。							

分類	内容		研修		平成16年度イン・シ・ジュニアリーター - 合同研修会		
	活動主体		子ども会				
参画の段階	6		その理由		大人が主催者であるが、企画運営はジュニアリーターが中心になって行う。7のレベルが理想であるが、実際はキャンプ中も大人の助けが必要。		
団体名	伊勢原市子ども会育成会連絡協議会	E-Mail	seisyounen@is ehara-city.jp	対象	市内在住中学生(公募20人)、市内子ども会6年生37人		
代表者名	市子連会長 荒川幸隆		0463-94-7171(事務局)	スタッフ	大人(市子連役員)12人、ジュニアリーター(中学生)20人		
実施時期	平成16年6月1日~平成17年3月31日	参加人数	69人(大人12人、中学生20人、小学生37人)		年齢	11歳~15歳	
他団体・組織との連携	伊勢原ジュニアリーダースクラブ、成瀬ジュニアリーダースクラブ		活動資金	市よりジュニアリーター養成事業委託費10万円、市子連事業費			
趣 旨	実践的な交流活動や体験学習を通して、ジュニアリーターとしてのあるべき姿を学ばせる。						
実施することになったきっかけ	子ども会活動において、大人と子どもの橋渡し役としてジュニアリーターの養成が必要。						
事業(活動)内容	ジュニアリーターは1泊2日のキャンプリーターを務めるため、事前研修5回受講。8月に伊勢原市日向ふれあい学習センターでの1泊2日のキャンプを運営する予定。キャンプの反省会として、事後研修を1回実施予定。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	キャンプのプログラム検討や企画をジュニアリーターが考え、大人の助言の中で決めた。キャンプ当日のプログラム運営をジュニアリーターが中心となって実施した。9月に事後研修を開催し、反省点を洗い出す予定。今後は子ども会事業において、ジュニアリーターとして協力してもらう予定。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	伊勢原市子ども会育成会連絡協議会		大人				
ジュニアリーターの自主性とやる気を維持させながら、やりたいこととできることの区別を助言するのに苦労した。8月のキャンプではプログラム運営はジュニアリーターが中心となって実施した。キャンプ中はプログラムごとの個別指導はジュニアリーターに任せることができたが、プログラム全体の進行については、大人のフォローが必要だった。							

< 研修 >

分類	内容		研修		中学生リーダー研修事業			
	活動主体		青少年					
参画の段階	6		その理由	一番最初に一つひとつの事業の目的を説明したので、子ども一人ひとりが目的を理解して職員と話し合えた。				
団体名	中学生リーダー		E-Mail	youth@cityfujisawa.ne.jp	URL http:// www.cityfujisawa.ne.jp/~youth			
代表者名	(財)藤沢市青少年協会		0466-25-5215	スタッフ	-			
実施時期	年間5回事業実施	参加人数	20人	対象	藤沢市内在学・在住の中学生	年齢	13～15歳	
他団体・組織との連携		特になし		活動資金	委託費 189,000円			
趣 旨	青少年が学校・学年といった枠をこえた仲間と共に、一緒に力を合わせ事業の活動内容の企画・立案を行うことで主体性や自主性を育み、豊かな人間性を形成し、リーダー的素養を形成することを目的とする。							
実施することになったきっかけ		豊かな人間性やリーダー的存在の中学生を増やす。						
事業(活動)内容	市内の中学校に募集をかけ、おおまかな年間計画は職員間で決めておき、一つひとつの事業の内容については中学生の参加者と職員で決定していく							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	一番最初に職員からおおまかに決めた事業の一つひとつの目的などを説明した上で事業の内容などを職員と一緒に話し合った。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	(財)藤沢市青少年協会		青少年と大人					
キャンプや野外活動を行なう際に、「危険」だと認識していながら危ないことをする傾向があった。そのため、職員は安全管理に非常に気をつけた。また、集団になじめない子に対しては職員が積極的に関わりを持った。								

分類	内容		研修		高校生リーダー研修事業			
	活動主体		青少年					
参画の段階	7		その理由	今回の参加者は3年生がとても下の学年の者をまとめてくれた。職員としては、助言と施設などの手続きくらいしかやっていないから。				
団体名	高校生リーダー		E-Mail	youth@cityfujisawa.ne.jp	URL http:// www.cityfujisawa.ne.jp/~youth			
代表者名	(財)藤沢市青少年協会		0466-25-5215	スタッフ	-			
実施時期	年間6回事業実施	参加人数	18人	対象	藤沢市内在学・在住の高校生	年齢	15～18歳	
他団体・組織との連携		特になし		活動資金	委託費189,000円			
趣 旨	参加者が興味・関心のある活動に主体的に関わり、活動プログラムの企画・立案・運営まで自主性に行うことで達成感を得る喜びと共に、一人ひとりに責任感を持たせ同年代との相互に交流することを目的とする。							
実施することになったきっかけ		大人への第一歩として責任感の持てる高校生やリーダー的存在の高校生を増やす。						
事業(活動)内容	市内在住・在学の高校に募集をかけ、年間計画から運営まで企画、立案をし、一つひとつの事業に対して目的を持たせて高校生自身が一人ひとり意見を言ったことに対して責任感を持ち、事業の組み立て等を行っている。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	基本的には、高校生が目的を持ったうえで進めて行っている為、職員は重要な所だけを言うなどの他、施設の手続きなどしか行わない。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	(財)藤沢市青少年協会		青少年					
年間計画から企画・運営・立案まで高校生が主となって行っており、職員が関わることは非常に少なかった。ただ、話し合いを進める中で、しばしば話がそれてしまうことがあり、職員が修正する場面もあった。								

分類	内容		研修		子ども会リーダー野外研修会		
	活動主体		市子連				
参画の段階	4		その理由	大人が計画して子どもは役割を果たしているが、最終的に大人の指示が多い。			
団体名	座間市子ども会育成会連絡協議会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	市子連会長 丸尾		046-253-8415 座間市青少年課	スタッフ	大人18人、中・高生22人		
実施時期	夏休み 2泊3日	参加人数	120人	対象	市子連加入者(小学4~6年生)	年齢	10~12歳
他団体・組織との連携	宮ヶ瀬共栄貯蓄会(森林組合)		活動資金	市の委託金30万円と参加費(1人1,500円)で、食費・交通費・宿泊費を賄う。			
趣 旨	自然の尊厳・社会の決まりや生きることの大切さを認識し、自らの力で考え判断し、野外活動を通して行動できる子ども会のリーダーとして自覚を高め、生きがいに満ちた人間形成が行われること。						
実施することになったきっかけ	研修の一環						
事業(活動)内容	座間市立清川自然の村 1日目 川遊び・きもだめし(ジュニアリーダー指導)						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	ジュニアリーダーが当該研修のための事前研修を行い、当日のレクリエーション等のメニューの進行を決定した。当日も、ジュニアリーダーが中心となり班をつくり、参加者をそれぞれ活動班(班長・副班長・まき・かまと係・食器係)、就寝班(室長・シーツ係・清掃係)で分担を決め活動した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	座間市子ども会育成会連絡協議会	青少年と大人					
以前は、登山コース等で登山経験を取り入れたが、無理と危険が生じたためメニューが制限されてきた。研修については、ジュニアリーダーを中心とした異年齢交流を図り、また、リーダーシップを養いながら自然の中での団体生活を学ばせた。							

分類	内容		研修		ジュニアリーダー初中級養成研修会		
	活動主体		ジュニアリーダーズクラブ				
参画の段階	6		その理由	賃金、場所については大人が決めているが、プログラム立案から進行まではジュニアリーダーのみで実行している			
団体名	厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会	E-Mail	8700@city.atsugi.kanagawa.jp	URL	なし		
代表者名	厚木市青少年課		046-225-2580	スタッフ	高校1,2年生のジュニアリーダー		
実施時期	平成16年7月24日~25日	参加人数	100人	対象	中学1年生~高校2年生	年齢	12~17歳
他団体・組織との連携	厚木市青少年指導員連絡協議会への委託		活動資金	市からの委託金(483,000円)			
趣 旨	中学生ジュニアリーダーの育成						
実施することになったきっかけ	ジュニアリーダーの育成						
事業(活動)内容	ジュニアリーダーとしての知識と技術、また子ども会や地域青少年団体の活動において指導・助言を行うために必要なキャンプの知識と技術を習得させるとともに、援助のできる初級(主に中学校1年生)及び中級(主に中学校2,3年生)のジュニアリーダーを養成する。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	キャンプファイヤーと野外料理のみ必ずプログラムに取り入れることとし、その他のプログラムについてはジュニアリーダー(高校1~2年生)が自分らで会議を重ね、当日もジュニアリーダー主体で進行した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	厚木市ジュニアリーダーズクラブ連絡協議会	青少年と大人					
申し込み期限が守れず、参加人数の最終確認が大幅に遅れた。							

< 研修 >

分類	内容	研修		第32回関東甲信越静地区子ども会ジュニアリーダー大会			
	活動主体	ジュニア・シニアリーダー					
参画の段階	6	その理由	各々の活動はレベルアップしていたが、全体的な流れの把握が出来ていなかった。				
団体名	神奈川県子ども会連絡協議会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	山上 武久		045-365-3424	スタッフ	神奈川県内のジュニア・シニアリーダー、県子連役員		
実施時期	平成16年 7月29～31日	参加人数	217人	対象	中高生、青年指導者	年齢	13歳～
他団体・組織との連携	全国子ども会連合会を主とし、関東ブロック9県の県子連		活動資金	参加者の会費と全子連、関ブロ各県からの助成金、神奈川県子ども会安全会より助成金			
趣 旨	一人ひとりがレベルアップに努め、リーダーとして向上心を持ち地域での活動を充実させる。						
実施することになったきっかけ	関東甲信越静ブロック10県(東京除く)で当番制						
事業(活動)内容	2泊3日のプログラムのうち、全体で行うプログラムと個々にコース別に分かれて行うコース別研修(レクゲーム、レクダンス、討論、野外炊事など)プログラムを中心に、レベルアップを目指した。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	昨年10月に実行委員会を立ち上げ、半年間はスタッフの研修を行い、3月よりプログラムの内容等を討議。全体会、係別などを通して、全体の意識の向上に努めた。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	神奈川県子ども会連絡協議会	青少年と大人	-				
県内各地からスタッフを募集したので、意識の統一、時間・場所の調整、それにとまなう経済面などに苦労した。							

分類	内容	研修		インリーダー研修会			
	活動主体	子ども会					
参画の段階	7	その理由	リーダー養成のための研修であるので、質問には答えるが子どもの自主性に任せた。				
団体名	小田原市子ども会連絡協議会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	橋本 輝夫		0465-33-1723 小田原市 青少年課	スタッフ	小田原市子連役員、ジュニアリーダーズクラブ員、行政職員		
実施時期	平成16年1月24日	参加人数	156人	対象	小学5年(単位子ども会)	年齢	10～11歳
他団体・組織との連携	小田原市総合体育館アリーナジュニアリーダーズクラブ		活動資金	市子連の予算内で行う			
趣 旨	単位子ども会の5年生全員が参加し、リーダーに必要な知識・技術を習得する。						
実施することになったきっかけ	5年生の間に上級生としての心得・技術などを習得しておく、6年生になってから即戦力になるので。						
事業(活動)内容	危険予知訓練、工作体験、どんな6年生になったらよいか、ゲームなどを通してリーダーに必要な知識・技術を習得した(毎年行っている)						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	市子連役員が子どもの立場になって考え決定。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	事業・活動主体(主催)	企画・立案	大人の関わり		その他		
	小田原市子ども会連絡協議会	大人					
限られた時間内で盛りだくさんのプログラム内容で行うので大人は我慢が大切。つい口を出してしまいそうになるのを我慢して子どもとジュニアリーダー員に任せた。							

分類	内容		研修		地域少年リーダー養成講座			
	活動主体		青少年指導員協議会					
参画の段階	6		その理由		青少年指導員と青少年と一緒に活動している。			
団体名	小田原市教育委員会	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL	http://www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen			
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	青少年指導員、ジュニア・リーダーズ・クラブ			
実施時期	7月	参加人数	55人	対象	小学6年生、中学1年生	年齢	12～13歳	
他団体・組織との連携	小田原市青少年指導員協議会へ委託		活動資金		市、参加費			
趣 旨	自然の中での共同生活を通じて自主性、自立心、積極性などリーダーとして必要な意識を育てる。							
実施することになったきっかけ	地域における青少年リーダーの養成を図る。							
事業(活動)内容	小学6年生、中学1年生を対象に、青少年の家にて野外炊事、グループワーク、奉仕活動、キャンプファイヤー等の研修を行う。また、事前研修、事後研修を各1回行う。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	青少年指導員とジュニア・リーダーズ・クラブが企画、立案、運営している。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小田原市青少年指導員協議会		青少年と大人					
大人は、技術を伝授し、青少年の活動を見守る。								



< 交流 >

分類	内容		交流		第3回スカウトキャンポリー		
	活動主体		ボーイスカウト				
参画の段階	6		その理由	大人が主催者であるが、行事の内容は子どもたちの考えに基づき、大人も相談に乗りながら子ども達に決定させたから。			
団体名	日本ボーイスカウト神奈川連盟横浜南央地区	E-Mail	masato-n@mx7.ttcn.ne.jp	URL http:// www.mandala.co.jp/boyscout/bs_nanoh/			
代表者名	酒井 繁		045-714-3450	スタッフ	指導者200人、高校生・大学生等79人		
実施時期	平成16年8月12日～16日 4泊5日	参加人数	586人	対象	小学1年生～社会人	年齢	2～78歳
他団体・組織との連携	ガールスカウト日本連盟横浜友好団、国立那須甲子少年自然の家		活動資金	個人参加費 地区費 ガールスカウト補助金 寄付金 合計13,283,000円			
趣 旨	ボーイスカウト横浜南央地区のスカウト・指導者とガールスカウトの友好団が那須甲子少年自然の家に会し、野営・舎営を行う。						
実施することになったきっかけ	横浜南央地区では、創立10周年である平成5年と13周年である平成8年にキャンポリーを実施しており、今年が創立20周年にあたるため。						
事業(活動)内容	1. 小学1年～5年生のスカウト・指導者及び一般の父母は8月13日～16日の3泊4日とし、本館に附帯する宿泊棟を利用。 2. 小学6年～中学生のスカウトおよび指導者は8月12日～16日の4泊5日で、テントによるキャンプ場での野営。 3. 高校生以上のスカウトおよび指導者は8月12日～16日の4泊5日とし、宿泊棟						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	ボーイスカウトのベンチャースカウト(高校生)、ローバースカウト(大学生と社会人)およびガールスカウトのレンジャー(高校生)、ヤングリーダー(大学生と社会人)が中心になり、約1年前から数回の委員会・部会を作り計画し、大人も色々アドバイスを決定した。現地では高校生以上のスカウトにプログラムをすべて任せられたので、自炊する時間がなく、宿泊棟にて給食となった。全体行事のプログラム進行で夜を徹してのミーティングになることもしばしばあった。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	日本ボーイスカウト神奈川連盟横浜南央地区	青少年と大人	～				
主として高校生に大会の華である、全体行事(開会式、村祭り、閉会式など)および選択プログラムを担当して貰ったが、当初はやる気があるのか無いのか、あまり力が入らない様子だったが、大会直前3ヶ月位から、大いに意気あがり、遅くまでミーティングを繰り返し、現地に現地に入ってから調整業務に一生懸命だった。現地ではのほせ気味のところもあったので、それを抑えるのに苦労した。							

分類	内容		交流		日韓ガールスカウト交流事業		
	活動主体		ガールスカウト				
参画の段階	8		その理由	支部が主催し、県内から募集した。スカウト実行委員とサポートリーダーにより、最初から取り組み、子どもたちの考えを尊重して、サポートしながら決定していった。			
団体名	(社)ガールスカウト日本連盟神奈川支部	E-Mail	gs-kana@muse-ocn.ne.jp	URL http:// www2.ocn.ne.jp/~gs-kana/			
代表者名	小山 文子		045-365-3423	スタッフ	高校生(県内のレンジャースカウト)とサポートリーダー(8人)		
実施時期	平成16年7月28日～8月4日	参加人数	約600人(韓国28、日本実行委17)	対象	日本・韓国のガールスカウト	年齢	高校生
他団体・組織との連携	(社)ガールスカウト日本連盟の支援と連携		活動資金	外務省(日韓文化交流基金)より			
趣 旨	若い世代の相互理解を深め、両国の友好関係を強化すること						
実施することになったきっかけ	ガールスカウト神奈川支部結成50周年記念事業の一環として						
事業(活動)内容	1998年日韓首脳会議の合意に基づき、日韓関係を創り上げるために青少年の交流が大切であるとのことから実施され、今年6年目となるこの事業の地区プログラムをガールスカウト神奈川支部結成50周年を記念して受託した。7/28～8/4までの神奈川県滞在中のプログラムの企画・運営に高校生9人とヤングリーダーがサポートをして行った。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	交流を中心としたプログラムを担当。より多くのガールスカウトまたホームステイを通して地域の人たちとの交流ができるようにし、選択プログラムで日本の文化や地域の産業などについて体験(一緒に)できるように計画し、その為の資料づくりや実際の活動を行った。またその為にはサポートリーダーの支援があって計画通りに実施できた。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	ガールスカウト神奈川支部	青少年と大人					
外務省 日本連盟 神奈川支部での事業のため、予算や経費などの取り決めがあり、マネージメントについては大人がサポートした。特に施設や行政への依頼や申請書類などは組織として提出しなければならないので、実行委員の思いが実現しないこともあった。またガールスカウトのプログラムとしてスカウト主体ではあるが、このような大きな事業に対しては経験不足や準備期間が短く大変だった。							

分類	内容	交流		青少年国際化推進事業			
	活動主体	実行委員会					
参画の段階	7	その理由	子どもといってもみんな大学生以上で社会人も多くいるため、主体的に取り組んでいた。ただ、逆に社会人等は忙しく時間の調整が難しかった。				
団体名	青少年国際化推進事業実行委員会	E-Mail	youth@cityfujisawa.ne.jp	URL http:// www.cityfujisawa.ne.jp/~youth			
代表者名	(財)藤沢市青少年協会		0466-25-5215	スタッフ	-		
実施時期	通年	参加人数	-	対象	青少年	年齢	-
他団体・組織との連携		特になし		活動資金	委託費 770,000円		
趣 旨	青少年が多くの外国人と交流し、相互に理解を深め、共に生きる体験を通して互いの人権を尊重する心を養うとともに青少年が国際的視野を持つことの出来るような事業を行う。						
実施することになったきっかけ		藤沢に在住している外国人と日本人青少年の交流の橋渡しをする。					
事業(活動)内容	・外国人のための日本語講座の実施 ・世界のあいさつ入門講座の実施 ・情報紙の発行						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	日本語講座:基本的に授業の進め方、教え方は全て青少年のスタッフが相談し、決定している。国際交流のつどい:イベントの企画・運営は青少年のスタッフが相談し、決定している。情報紙:紙面の内容からレイアウト、翻訳まで青少年のスタッフが行っている。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	青少年国際化推進事業実行委員会		青少年と大人				
ボランティア活動として非常に気楽に、楽しく参加していたが、反面、責任感に欠ける場面があった。事業が具体化しても打ち合わせに欠席したり、遅刻したりするスタッフが多くみられた。そのようなときに大人から苦言を呈するよりは、逆に「無理をしないで」という声かけをすることにより、自立性を促した。							

分類	内容	交流		平成16年度奈川村青少年ふれあい交流			
	活動主体	実行委					
参画の段階	6, 7	その理由	実際の動きとしては子どもたちが主体的になり実施できたが、何のためにやるのか、次に何をやるべきかについての認識が不足していると感じた。				
団体名	湯河原町親善都市子ども交流推進事業実行委員会	E-Mail	syakaiky@town.yugawara.kanagawa.jp	URL http:// www.town.yugawara.kanagawa.jp			
代表者名	実行委員会委員長 湯河原町教育長 木村昌夫		0465(63)2111 湯河原町 教育委員会	スタッフ	大人4人(ジュニアリーダーズ・クラブ指導者1人及び教育委員会職員3人)		
実施時期	8月9日~11日	参加人数	20人(中学生16人・引率者4人)	対象	湯河原町ジュニアリーダーズ・クラブ会員	年齢	13歳~15歳
他団体・組織との連携		町子ども会との連携・協力		活動資金	町委託料633,000円により宿泊費及び各種研修諸費用を賄う。なお、参加者負担金として1人5千円を徴収した。		
趣 旨	友好親善提携を結ぶ長野県奈川村の青少年との交流を図り、青少年の健全育成とふれあいを推進する。また、環境学習や郷土芸能を学ぶことによりリーダー養成事業としても併せて実施する。						
実施することになったきっかけ		以前から奈川村の青少年が海洋学習として隔年で湯河原町を訪れていた経過があり、湯河原町からも奈川村を訪問し青少年の相互の交流を図ろうとしたもの。					
事業(活動)内容	奈川村での青少年相互の交流と、地域の魅力を生かした体験活動を軸に実施した。交流会では互いの学校生活や進路の話で交流した茶話会、湯河原町と奈川村の地域紹介やレクリエーションを行った。普段取り入れられない活動として、奈川村のブナの森林の手入れ作業(下草刈り)や乗鞍高原での環境学習を実施し体験活動を推進した。また、製糸女工にまつわる民俗芸能を学習し、郷土の歴史への理解を深めた。特産である奈川村のそば粉を用いてそば打ち体験も実施し、食文化とのふれあいも図った。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	奈川村の青少年との交流会では、両町村の中学生が直接(または電話で)話し合い、内容を企画した。今年度は湯河原町からの訪問であったため奈川村中学生がよる主導となり、交流会の流れや準備品などの企画を行った。湯河原町中学生は内容についての提案をし、特に地域紹介では内容を吟味し職員の指導のもとパワーポイントでの湯河原町の紹介を企画した。林業体験や環境学習、そば打ち体験については、参加者の希望により実施し内容を考慮した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他
	湯河原町親善都市子ども交流推進事業実行委員会		青少年と大人				
2泊3日の日程に対してどのようなアウトラインを描くか、体験学習で何を学ぶかについて参加者の発案をできるだけ生かすよう配慮した。交流に関する事務的な手続きや調整は育成者が行い、研修会の進行に始まり役割分担や奈川村中学生との連絡調整など、中学生自身でできることは極力参加者が行う環境を整えた。							

< 交流 >

分類	内容		交流		横須賀市ジュニアリーダー他都市交歓会		
	活動主体		行政				
参画の段階	7		その理由		市主催であるが、ジュニアリーダーのための行事ということを認識してもらうためこのようなスタイルをとっている。		
団体名	横須賀市		E-Mail	なし	対象	横須賀市ジュニアリーダー養成講習会OB会会員および平塚市ジュニアリーダーズクラブ会員	
代表者名	横須賀市青少年課		046-822-8224	スタッフ	大人2人、高校生3人、中学生1人		
実施時期	平成16年2月14日(土)~15日(日)	参加人数	20人(横須賀市5人、平塚市15人)		年齢	14~22歳	
他団体・組織との連携	平塚市・横須賀市ジュニアリーダー養成講習会OB会、平塚市ジュニアリーダーズクラブ		活動資金		食費は横須賀市負担、現地までは横須賀市バスにて移動、宿泊費は平塚市所管の施設のため全額減免		
趣旨	他都市のジュニアリーダーとの交流を通じて見聞を広め、自己の活動に活かすとともに、ジュニアリーダー相互の連帯と活動の発展を図る						
実施することになったきっかけ	特になし						
事業(活動)内容	平塚市びわ青少年の家にて、両市のジュニアリーダーが情報交換・レクゲーム・共同作業などを行い、1泊2日交流した。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	両市のジュニアリーダーがそれぞれスタッフを2~3人ずつ出し、会議を数回行った。会議はジュニアリーダーのみで実施し、内容・スケジュールを話し合い、資料作成・会場下見を行った。また、当日の進行・運営も全てジュニアリーダーが行った。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催		企画・立案		大人の関わり		その他
	横須賀市		青少年と大人				
内容・スケジュール・食事内容について決定の締切を提示し、後はジュニアリーダーに任せました。会議の都度、ジュニアリーダーから決定事項を聞き、スケジュールに無理はないかなど助言を行いました。苦労した点はスタッフがなかなか集まらなかった点と、両市のスケジュール調整が難しく、中・高校生のテスト前にしか実施日が設定できなかった点です。							

分類	内容		交流		横須賀市ジュニアリーダー他都市交歓会		
	活動主体		行政				
参画の段階	7		その理由		市主催であるが、ジュニアリーダーのための行事ということを認識してもらうためこのようなスタイルをとっている。		
団体名	横須賀市		E-Mail	なし	対象	横須賀市ジュニアリーダー養成講習会OB会会員および平塚市・葉山町ジュニアリーダーズクラブ会員	
代表者名	横須賀市青少年課		046-822-8224	スタッフ	大人3人、高校生以上2人、高校生9人		
実施時期	平成16年6月26日(土)~27日(日)	参加人数	25人(横須賀市12人、平塚市8人、葉山町5人)		年齢	14~22歳	
他団体・組織との連携	平塚市・葉山町・横須賀市ジュニアリーダー養成講習会OB会、平塚市・葉山町ジュニアリーダーズクラブ		活動資金		食費は横須賀市負担、宿泊費は横須賀市所管の施設のため全額減免		
趣旨	他都市のジュニアリーダーとの交流を通じて見聞を広め、自己の活動に活かすとともに、ジュニアリーダー相互の連帯と活動の発展を図る。						
実施することになったきっかけ	特になし						
事業(活動)内容	横須賀市田浦青少年自然の家にて、3市町のジュニアリーダーが情報交換・レクゲーム・キャンプファイヤー講習などを行い、1泊2日交流した。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	3市町のジュニアリーダーがそれぞれスタッフ3~4名ずつ出し、会議を数回行った。会議はジュニアリーダーのみで実施し、内容・スケジュールを話し合った。また、当日の進行・運営も全てジュニアリーダーが行った。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催		企画・立案		大人の関わり		その他
	横須賀市		青少年と大人				
内容・スケジュール・食事内容について決定の締切を提示し、後はジュニアリーダーに任せました。会議の都度、ジュニアリーダーから決定事項を聞き、スケジュールに無理はないかなど助言を行いました。苦労した点は3市町のスケジュール調整が難しかったことです。							

分類	内容	交流		ジュニアリーダー他都市交歓会			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	7	その理由	誘いを受けた葉山町からはそのように見えたから				
団体名	葉山町ジュニアリーダーズクラブ	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	葉山町生涯学習課		046-876-1111 (代)	スタッフ	市町職員、ジュニアリーダー10人程度		
実施時期	平成16年6月26日 (土)~27日(日)	参加人数	30人(欠席あり)	対象	横浜市・平塚市・葉山町のジュニアリーダー	年齢	15~20歳
他団体・組織との連携	横須賀市、平塚市青少年課、横須賀市田浦青少年自然の家		活動資金	宿泊費不要、交通費自己負担、食費はクラブで負担			
趣 旨	他市のジュニアリーダーと接することで、交流を深め、自己のスキルアップ等を図る。						
実施することになったきっかけ	横須賀市からの誘い、ジュニアリーダーの交流したいという声						
事業(活動)内容	田浦青少年自然の家で1泊2日のキャンプを実施。3食の野外炊事、キャンプファイヤー、レクゲーム、レクリーダーとしての研修を実施。						
青少年がどのように参加して事業・活動を進めたか	上記の内容については、すべてジュニアリーダーが考えて決定した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	横須賀市	青少年					
葉山町の青少年担当職員としては、引率として参加しただけですべてをジュニアリーダーが実施したと思う。							

分類	内容	交流		平塚市海洋少年団交流事業			
	活動主体	実行委員					
参画の段階	5	その理由	主催者は大人であるが、研修中は青少年スタッフと相談しながら研修を進めていく機会があるから。				
団体名	平塚市海洋少年団交流事業実行委員会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	実行委員長 清水泰宏		0463-32-7029 平塚市市民部 青少年課	スタッフ	19人(大人10人、高校生9人)		
実施時期	平成16年7月28日 (水)~30日(金) 2泊3日	参加人数	91人(中学生)	対象	市内在住の中学生	年齢	12~15歳
他団体・組織との連携	東海大学		活動資金	平塚市からの委託料(別途、参加者から負担金を徴収する)			
趣 旨	本市の中学生が船上で集団活動することにより、自主性、協調性、他人を思いやる心を育てる。また日頃経験できない洋上生活を行うことで心身を鍛える。 海洋観察や星空観察、孤島の自然にふれあうことにより、自然のすばらしさを体験する。また、万が一、海難事故が発生した場合に備えての緊急訓練を実施し、海上における危機管理の重要性を認識する。 本事業終了後、地域における社会活動へ自主的に参加し、指導的役割の担い手としての資質の向上を図る。						
実施することになったきっかけ	上記の趣旨による青少年育成事業として効果的な事業のため						
事業(活動)内容	東海大学所有の「望星丸」を使った、2泊3日の海洋研修。途中、伊豆諸島で上陸活動を行う。						
青少年がどのように参加して事業・活動を進めたか	事業内容やスケジュールについては、実行委員会で決定するが、スケジュールの実行に当たっては、青少年を中心とした運営委員(スタッフ)の意見を取り入れながら、運営委員が運営する。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	平塚市海洋少年団交流事業実行委員会	大人					
今回、台風の影響でスケジュールの大幅な変更を行って実施した。							

< 交流 >

分類	内容		交流		今市市・小田原市子ども会交歓会			
	活動主体		子ども会					
参画の段階	4		その理由	事前研修において、何のために、今市に行くのかは知っている。プログラムの中では自由に行っているが役割は果たしている。				
団体名	小田原市子ども会連絡協議会	E-Mail	なし	URL なし				
代表者名	橋本 輝夫		0465-33-1723 小田原市 青少年課	スタッフ	小田原市子ども会連絡協議会、役員、小田原市ジュニアリーダーズクラブ員、行政職員			
実施時期	平成16年7月21日～22日	参加人数	50人	対象	市内子ども会員 (25学区から男女1人ずつ)	年齢	11～12歳	
他団体・組織との連携	今市市・今市市子ども会連絡協議会等		活動資金		小田原市の委託事業のため予算があり予算内で行う、参加者の負担無し			
趣 旨	小田原市子ども会連絡協議会、役員、小田原市ジュニアリーダーズクラブ員、行政職員							
実施することになったきっかけ	小田原市と今市市が姉妹都市のため子ども会も交流することになる							
事業(活動)内容	今市市・小田原市の子どもが50人ずつで交歓会を行う。 二宮神社見学と歓迎式～自然の家～いわなのつかみどり～川遊び～キャンプファイヤー キーホルダー作り・ウエスタン村1泊2日							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	・今市市行政が主催 ・歓迎式、おわかれ会、キャンプファイヤー等、プログラムの中に子どもの出番がある							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小田原市子ども会連絡協議会		大人					
・バス2台で早朝から出発のため、健康管理に注意する。 ・出来るだけ、子ども達にもやる気を起こさせるために、事前研修、事後研修を行い、遊びに行くのではないという意識を持たせた。 ・毎年、交互に今市と小田原を交替で訪問するようにしている。15、17年度は小田原で交歓会を行う。								

分類	内容		交流		小田原市・岸和田市青少年活動交流			
	活動主体		行政					
参画の段階	4		その理由	その年の内容については、事前に大人が決定している。				
団体名	小田原市教育委員会	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL http:// www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen				
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	小田原市シニアリーダーズ・クラブ会員			
実施時期	平成15年6月	参加人数	18人	対象	学生、社会人	年齢	18～30歳	
他団体・組織との連携	平成15年度は、小田原市シニアリーダーズ・クラブへ委託		活動資金		市からの委託料			
趣 旨	小田原市・岸和田市が青少年に関する友好都市として、友好・親善の輪を広げる。							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	小田原市シニアリーダーズ・クラブ代表18人が参加。岸和田市カウンセラー協議会と新緑会12人を迎え、キャンプ技術の交流や中心市街地等の社会見学を通して交流を深めた。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	宿泊地である青少年の家でのプログラムを進行。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小田原市教育委員会		青少年と大人					
岸和田市との連絡調整は、事務局にて行った。								

< 成人式 >

分類	内容		成人式		平成15年度 やまと成人式			
	活動主体		実行委					
参画の段階	6		その理由	行政と実行委員が主催者であり、企画の段階から若者の考えを取り入れ、協議を重ねて最終的に決定したから。				
団体名	平成15年度やまと成人式実行委員会		E-Mail	なし	URL			なし
代表者名	大和市 青少年センター			046-260-5224	スタッフ	新成人・青年19人、大人6人		
実施時期	平成16年 1月12日(月)	参加人数	1,513人	対象	昭和58年4月2日～昭和59年4月1日の期間に生まれ、平成15年11月1日現在大和市内に住民登録(外国人登録者を含む)のある人	年齢	20歳(新成人)	
他団体・組織との連携	(社)大和青年会議所・大和商工会議所・大和市母親クラブ連絡協議会・大和市青少年指導員連絡協議会・桜林会・林間着付サークル・大和ユースクラブ・サークルありんこ			活動資金	市からの委託金6,175,000円			
趣旨	成人の日を記念し、社会人としての自覚を高めるとともに、これからの人生を自らの力と自主的な判断で歩んでゆこうと決意している新成人をお祝いすることを目的として開催する。							
実施することになったきっかけ	行政が設定し、参加するだけの式にするよりも、新成人自身が企画に加われるようにするため。							
事業(活動)内容	第1部は式典、第2部はアトラクション(立食パーティー・抽選会)。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	式典・アトラクションの企画から実行にいたるまで、新成人を中心とした実行委員会が行った。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	平成15年度やまと成人式実行委員会		青少年と大人					
成人式の開催にあたり総予算、日程、会場を除くほとんどの事柄を実行委員会で決定している。その中心となるのは参加者でもある新成人代表で、それをサポートするのが新成人代表経験者からなる青年代表である。団体推薦の大人の委員には青少年の議論の様子を見守り、大人ならではのアドバイスを送ってもらった。また、当日参加してもらった協力団体のとりまとめを担っていただいている。15年度は、より新成人の意見を反映させるため、実行委員会を青少年だけの会議と全体会議を交互に開いていく形式とした。								

分類	内容		成人式		新成人のつどい			
	活動主体		実行委					
参画の段階	6		その理由	大人が主催者であるが、企画の段階から子どもたちの考えを取り入れ、大人と相談しながら最終的な決定したから。				
団体名	新成人のつどい 実行委員会		E-Mail	seisyou@city.hadano.kanagawa.jp	URL			なし
代表者名	秦野市青少年課			0463-81-7011	スタッフ	40人程度		
実施時期	成人の日	参加人数	1,600人程度	対象	新成人	年齢	19～20歳	
他団体・組織との連携	秦野市青少年指導員連絡協議会・秦野市相談員連絡協議会			活動資金	公費			
趣旨	新たに成人する若者を祝い、新成人の旧友との再会の場という考えのもとに気軽な歓談の場を設け、また社会的責任や立場を自覚し、明るい未来を想像する力を持てるよう励ますため、新成人で組織される実行委員会により、企画・運営・当日の進行を進めていく「新成人参加型成人式」を実施。							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	「新成人のつどい」 1部 式典 2部 二十歳のパフォーマンス(参加者を公募)							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	「新成人のつどい」の企画・運営							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	秦野市・秦野市教育委員会		青少年と大人					
全体的な方向性を定め、実行委員会を組織し、軌道補正していく。								

< 成人式 >

分類	内容		成人式		平成17年平塚市成人式				
	活動主体		実行委員会						
参画の段階	6		その理由	主催者は市であるが、新成人だけで集まる実行委員会を組織し企画運営業務を委託する機会があるため。					
団体名	平成17年平塚市成人式実行委員会		E-Mail	なし	URL				なし
代表者名	実行委員長 河原まいこ			0463-32-7029 平塚市市民部 青少年課	スタッフ	実行委員20人			
実施時期	平成17年1月10日 (月)		参加人数	不明	対象	3,167人	年齢	20歳	
他団体・組織との連携			ボランティア		活動資金	平塚市委託料 5,480,000円			
趣 旨	成人式の企画運営に青年の意見を反映させる目的								
実施することになったきっかけ	特になし								
事業(活動)内容	年間9回の実行委員会、担当毎の打ち合わせ、式典前日、式典当日								
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	予算・式典内容・アトラクション決定								
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他		
	平塚市市民部青少年課		青少年				共同で作業		
意見の集約									

分類	内容		成人式		山北町成人式(第2部)				
	活動主体		実行委員						
参画の段階	6		その理由	成人者が自ら企画・立案し、一生に一度の成人式を思い出深いものにするため実行委員会制度をとり、一線を超えないよう大人がチェックする。					
団体名	山北町成人式実行委員会		E-Mail	なし	URL				なし
代表者名	山北町教育委員会 生涯学習課			0465-75-3649	スタッフ	成人者10人、青少年指導員4人			
実施時期	成人の日		参加人数	187人	対象	成人者	年齢	20歳	
他団体・組織との連携			山北町青少年指導員		活動資金	町より助成			
趣 旨	明日の日本を担う新成人の門出を、町をあげて祝福するとともに、法的に諸々な権利が与えられたことや、それに伴い大人としての責務が生じたことを自覚する機会とする。								
実施することになったきっかけ	特になし								
事業(活動)内容	山北町中央公民館で実施される成人式(第2部)を実施。								
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	成人式(第2部)の企画・立案をし、16年は立食パーティーを実施。								
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他		
	山北町成人式実行委員会		青少年と大人						
実行委員の選定が課題である。									

分類	内容	成人式		平成16年成人式			
	活動主体	実行委員					
参画の段階	6	その理由	大人(行政)が実施計画案を提示し、それを元に実行委員会にて協議決定し、当日の運営も子ども(新成人)が実施しているから。				
団体名	平成16年成人式 実行委員会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	南足柄市教育委員会 教育部教育総務課		0465-73-8034	スタッフ	平成16年新成人(8人) 市担当職員		
実施時期	平成16年1月12日	参加人数	423人	対象	平成16年新成人	年齢	-
他団体・組織との連携	青少年指導員連絡協議会	活動資金	市の補助金				
趣 旨	成人の仲間入りをする市民(新成人)を祝福するとともに、成人としての自覚を高める。						
実施することになったきっかけ	新成人の手で思い出に残る成人式を実施するため、毎年実施している。						
事業(活動)内容	成人式当日の企画と運営(司会・新成人のこぼし・受付など)。実行委員会を2回開催						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	実行委員会にて、当日の役割分担やアトラクションの決定、新成人のこぼしを考えた。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	南足柄市	青少年と大人					
時間と予算の関係上、大人(行政)の実施計画案を元に実行委員会にて検討し実施している。							

分類	内容	成人式		成人のつどい開催事業			
	活動主体	実行委員					
参画の段階	6	その理由	市の主催事業のためある程度の方向性を示すことが必要のため				
団体名	綾瀬市成人のつどい 実行委員会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	綾瀬市青少年課		0467-70-5655	スタッフ	新成人対象者6人、前年実行委員6人、青少年育成団体4人、中学校推薦者1人		
実施時期	平成15年5月 ～平成16年3月	参加人数	17人	対象	特になし	年齢	19歳以上
他団体・組織との連携	青少年指導員、青少年補導員、市子連、JLCから1人ずつ委員を選出	活動資金	委託金1,244,000円(平成15年度)				
趣 旨	大人になった事を自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ます。						
実施することになったきっかけ	新成人の立場に立ったよりよい成人のつどいとするため						
事業(活動)内容	成人のつどいの会場レイアウト、案内状、次第、パンフレット、アトラクションを企画・運営						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	月1回会議を行い、会場部会、広報部会、アトラクション部会に分かれ、それぞれ企画・運営を行った。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	綾瀬市青少年課	青少年と大人					
<p>…基本的に昨年の状況説明をする程度で話し合いを行っている。企画したことが実際に行うことができるか等相談に乗った。</p> <p>…会場は実行委員が活動する前から問い合わせがあるので事前に確保している。資金は委託料で行っている。広報も希望に応じて掲載した。</p>							

< 成人式 >

分類	内容		成人式		平成16年「成人の日」を祝うつどい			
	活動主体		実行委					
参画の段階	8		その理由		実行委員からの発案で、事務局の意見を参考にしながら最後まで職務を遂行している。			
団体名	平成16年「成人の日」記念事業実行委員会	E-Mail	sa02-harada@city.yokohama.jp	URL	http://www.city.yokohama.jp/me/gakusyu/section/ad/index.html			
代表者名	山崎 大輔		045-671-3716 (事務局)	スタッフ	委員長1人、副委員長3人、会計2人、監事2人、書記2人、委員13人			
実施時期	平成15年5月7日～16年3月31日	参加人数	23人	対象	横浜市内在住の市民	年齢	19歳～21歳(年度当初の4月1日現在)	
他団体・組織との連携		横浜市、横浜市教育委員会、横浜市選挙管理委員会(共催)		活動資金	自主企画の活動資金として約50万円			
趣 旨	「成人の日」の趣旨に沿って、新成人を祝い励ますための記念行事を円滑に運営・実施する。							
実施することになったきっかけ	新成人を中心とした若者が自ら企画・運営に参画するために、教育委員会が公募を行った。							
事業(活動)内容	(1)記念行事のコンセプト・キャッチコピーの決定 (2)当日参加者に配布するパンフレットの作成							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	毎月2～3回程度の会議を実施し、企画・立案を行う。また、パンフレットの取材、自主企画の準備を適宜行い、前日の準備及び当日の運営を行った。平成17年も同様の形態で実施している。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案		大人の関わり		その他		
	「成人の日」記念事業実行委員会		青少年				事務局として教育委員会職員が入り、適宜助言した。	
基本的には実行委員会の発案で、企画・立案・運営でイベントを実施しているが、記念式典全般に関することは、教育委員会と共催して運営している。予算面や実現可能性については、事務局として教育委員会職員が適宜助言している。平成16年は新たにホームページを立ち上げ、実行委員会の紹介や式典のPRを行ったり、著名人からのビデオレター撮影を実行委員自らの手で行った。苦労した点については、若者の斬新なアイデアと予算面などの制約の中で、実行委員の主体性を保ちつつ、いかに実現に向けて方向性をつけていくかを事務局職員に求められる。								

分類	内容		成人式		成人式			
	活動主体		実行委員会					
参画の段階	6		その理由		青少年と大人と一緒に活動している。			
団体名	小田原市・小田原市教育委員会	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL	http://www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen			
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	成人式運営委員、青少年育成推進員、シニア・リーダーズ・クラブ			
実施時期	平成16年1月	参加人数	2,326人	対象	新成人	年齢	20歳	
他団体・組織との連携		成人式運営委員会を組織、小田原市青少年育成推進員協議会や小田原市シニア・リーダーズ・クラブの協力		活動資金	小田原市			
趣 旨	新成人を対象として、その将来を祝福し、社会人としての自覚を高める。							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	1部式典、2部アトラクション「はたちのパフォーマンス～はたちの主張～」の2部構成で1回開催。 式典・・・お祝いのことば、励ましのことば、新成人の抱負など アトラクション・・・主張発表・バンド、管弦楽演奏など							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	成人式運営委員会を新成人で組織し、企画、立案、運営、実施している。 ・式典開始前上映ビデオの作成 ・舞台看板、外看板のデザイン ・司会台本の作成及び当日の司会進行 ・パフォーマンス参加者の募集に関すること ・記念品及び案内通知等への掲載内容の検討 など							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案		大人の関わり		その他		
	小田原市・小田原市教育委員会		青少年と大人					
大人は、式当日の運営に関わる。								

分類	内容		成人式		平成16年相模原市はたちのつどい			
	活動主体		青少年の団体					
参画の段階	6		その理由		8が近いと思いますが、最終的な責任は大人(行政)にあるため			
団体名	はたちのしゃべり場!!		E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	中山さとみ		042-769-8289 相模原市 青少年課	スタッフ	新成人18人			
実施時期	平成15年6月結成 ～平成16年1月		参加人数	7,637人	対象	新成人	年齢	19～20歳
他団体・組織との連携			特になし		活動資金	行政が支出		
趣 旨	一生に一度の成人式に様々な形で関わっていく。							
実施することになったきっかけ	5月に実施した市主催の意見提案会の席上で「一生に一度の成人式だから自分たちで作りあげたい」との発言							
事業(活動)内容	大ホール入口の装飾作成、ニュースレターの企画・制作、VTR「プロジェクト20」の撮影・編集、舞台看板・外看板のデザイン企画、司会(台本作成を含む)、記念映画選考会議への参加、「FMさがみ」市長インタビュー中継(詳細は別紙) 実行委員会ではありません							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	仲間の増やし方は、市の広報紙やFMさがみ、市のHPでの呼びかけと友人への声かけによる。活動の方法は、市がある程度の条件提示をしながら、新成人自身が自由に発想して市側と調整してアイデアを実現していくというスタイル。市側や団体内の連絡は電子メールを活用、市とのメールは168回であった。メールを活用したため、実際に会議をした回数はあまり多くはないようだ。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	成人式自体は市の主催だが、活動自体は団体が自主的に実施		青少年		新成人が様々なアイデアを出した際に、そのアイデアを具現化するために必要な事項や超えなければならない課題などを自分なりに考えて発言し、新成人の立場になってアシストしていき		ました。	
<p><市の担当者意見> 実行委員会形式といった「かたち」にこだわりはありませんでした。成人式の裏側などの情報を説明し、課題が生まれたら新成人と共有して考えるという姿勢で行いました。むしろ、携わってくれた新成人の方にどれだけ思い出をつくれるかということを考えていました。図書券などの謝礼は用意せず、成人式終了後に沢山の写真やFM放送のデータをCD-Rにして全員にプレゼントしたのがとても喜ばれたのが印象的でした。</p>								

分類	内容		成人式		平成16年成人式「津久井町はたちのつどい」			
	活動主体		実行委					
参画の段階	3		その理由		主催は町及び町教育委員会で行事の構成はあらかじめ決まっている。			
団体名	はたちのつどい 実行委員会		E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	遠藤 綾乃		042-784-3211 津久井町 生涯学習課	スタッフ	新成人15人、事務局(大人)2人			
実施時期	平成16年1月12日		参加人数	353人	対象	新成人(町内在住、出身他)	年齢	20歳
他団体・組織との連携	町青少年指導員、町交通指導 隊、町明るい選挙推進協議会				活動資金	町一般会計予算		
趣 旨	-							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	平成16年1月12日(月)成人の日 10:00～アトラクション(スライドショー)							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	アトラクションの企画の検討、スライドショーの資料収集、作成、成人式当日の運営などを大人と一緒にいった。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	津久井町及び津久井町教育委員会		青少年		過去の資料を提供し、なるべく実行委員の意見で決定するよう助言は控えた。			

<まつり>

分類	内容	まつり		浅間祭			
	活動主体	実行委員					
参画の段階	8	その理由	浅間祭に参加する青少年団体から1人ずつ出された実行委員が、実行委員会の一構成員として浅間祭の企画・立案・運営に参画した。				
団体名	浅間祭実行委員会	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	実行委員長 朝倉孝之		0463-32-7029 平塚市市民部 青少年課	スタッフ	実行委員及び役員		
実施時期	11月8・9日(土・日)	参加人数	12,000人	対象	制限なし	年齢	制限なし
他団体・組織との連携	なし		活動資金	平塚市からの委託料			
趣 旨	青少年会館の利用者及び市内の青少年を中心に市民との交流を深める。						
実施することになったきっかけ	同上						
事業(活動)内容	青少年会館及び正面広場を会場として、主に青少年会館利用団体による日頃の活動の成果の発表・展示や物品販売・ワークショップなどを行った。広報紙や学校を通じたチラシ配布などにより広く市民にPRし、より多くの市民の参加を呼びかけた。浅間祭の企画・立案から運営にいたるまで実行委員会が行った。参加団体から1人ずつの実行委員を出し、実行委員会を構成した。						
青少年がどのように参画して事業、活動を進めたか	浅間祭に参加する青少年団体から1人ずつ出された実行委員が、実行委員会の一構成員として浅間祭の企画・立案・運営に参画した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	浅間祭実行委員会	青少年と大人			青少年と大人は対等な立場		
上述のとおり、青少年も一実行委員としての立場に位置するため、青少年と大人の区別はない。							

分類	内容	まつり		青少年フェスティバル			
	活動主体	実行委員					
参画の段階	6	その理由	フェスティバルの企画から当日の運営まで、基本的には青少年主体の実行委員会が協議をし、必要に応じて助言等しながら進めている事業であるから。				
団体名	川崎市青少年育成推進委員会	E-Mail	25seiiku@city.kawasaki.jp	URL http://www.city.kawasaki.jp/25/25seiiku/home/festival/top.htm			
代表者名	川崎市市民局 青少年育成課		044(200)2669	スタッフ	平成15年度 企画運営スタッフ 16人 当日ボランティア 105人		
実施時期	例年3月	参加人数	約12,000人 (平成15年度)	対象	川崎市内の青少年	年齢	-
他団体・組織との連携	川崎市		活動資金	2,250,000円(川崎市から委託)			
趣 旨	青少年自身が同世代に向けてのイベントの企画・運営を担うことにより、青少年の社会参加を促進することを目的とする。また、川崎市内の青少年を対象にイベントを通じて様々なふれあい・体験をしてもらうことを併せて目的とする。						
実施することになったきっかけ	青少年の社会参加を促進するという意見から						
事業(活動)内容	会議の開催 川崎市青少年育成推進委員会の中に実行委員会(高校生～25歳までの青少年で構成)を立ち上げ、企画・広報・運営方法等について協議する。 実行委員は市内青少年関係団体による推薦または一般公募 事業内容(平成15年度)テーマ 「汗～川崎オリμπック区 とどろきザワールド～」 内 容 ゲームコーナー・ステージ・フリーマーケット・模擬店等						
青少年がどのように参画して事業、活動を進めたか	実行委員会(高校生～25歳までの青少年で構成)で青少年フェスティバルの企画・広報・運営方法等を協議し、また、フェスティバル当日には青少年ボランティアの協力を得ながら、事業を開催した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	川崎市青少年育成推進委員会	青少年と大人					
実行委員ができるだけ主体となって、青少年フェスティバルの企画・運営が行えるように、会場の確保や資料づくりなど支援した。しかし、実行委員だけにすべてを任せきりにするのではなく、重要な場面では、大人がアドバイス・修正を行うことで、フェスティバルが安全で楽しいものになるよう努めた。							

分類	内容	まつり			
	活動主体	実行委			
海老名市青年の祭典					
参画の段階	7	その理由	実行委員会が企画、運営をしているから		
団体名	海老名市青年の祭典実行委員会	E-Mail	なし	URL	なし
代表者名	実行委員長 小関拓		046-231-9787	スタッフ	社会人11人、大学生3人、高校生3人
実施時期	平成16年7月25日	参加人数	-	対象	高校生以上30歳未満の青年 年齢 16~29歳
他団体・組織との連携		海老名市		活動資金	海老名市からの委託料2,170,000円
趣 旨	団体活動、ボランティア活動の中から青年の意識の高揚を図る。				
実施することになったきっかけ	1984年国際青年の年に青年の社会参加を目的として始まった。				
事業(活動)内容	<ul style="list-style-type: none"> 毎年夏期に実行委員会が企画・運営する祭りの開催 活動拠点である海老名市立青少年会館の清掃活動、青少年会館利用団体のまつり参加(模擬店出店) 				
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	近隣の高校・大学に実行委員会への参画者を募集、現実行委員の口コミによる友人への参画依頼をし、事業に向けて定期的に会議を開催した。				
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり	その他
	海老名市青年の祭典実行委員会		青少年		
実行委員不足、半数以上が社会人で組織構成されているため、平日に活動できない部分について(祭りの協賛依頼、会場設営業者打ち合わせ等)は事務局が行ったが、実行委員に活動してもらいたかった面が多々あった。					

分類	内容	まつり			
	活動主体	子ども会			
ふれあい子どもフェスティバル					
参画の段階	4	その理由	アンケートを用意して来年の参考にしています。		
団体名	小田原市子ども会連絡協議会	E-Mail	なし	URL	なし
代表者名	橋本 輝夫		0465-33-1723 小田原市 青少年課	スタッフ	-
実施時期	平成16年7月3日	参加人数	約2,000人	対象	市内子ども会会員 年齢 6~12歳
他団体・組織との連携		小田原市総合体育館アリーナ、ジュニアリーダーズクラブ		活動資金	小田原市の委託事業のため市から予算がある
趣 旨	スポーツレクリエーションを通して親睦・交流を深め、自身の健全な発達と体力の増進を助長し、文化活動の発展を通して、子ども会活動の発展をはかる。				
実施することになったきっかけ	当初はスポーツ部門と文化部門に分かれて開催していましたが、1日に両方を行うことにしました。				
事業(活動)内容	小田原アリーナにおいて文化部門は絵画・習字・工作等を展示、メインアリーナでは、いろいろなゲームを競技し、リレーなど学区対抗4種目もあり、午前9:30~午後4:00間で盛り上がる。昼休みは大声コンテスト、紙ヒコーキとばし、北条だいこの演奏などを行う。				
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	プログラムについては市子連、企画部会が提案し、実行委員会で決定する(地域役員)。子どもは、開会のことば、閉会のことばに参加する。				
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり	その他
	小田原市子ども会連絡協議会		大人		
<ul style="list-style-type: none"> 大人が立案し、子どもは参加するのみ。 2,000人の子どもを動かすのに苦労している(集合、出発、などが毎年頭のいたいところ……)。 					

<まつり>

分類	内容		まつり		北条五代祭			
	活動主体		子ども会					
参画の段階	4		その理由	観光協会が計画しているが、子どもたちは行列の少年少女武者隊として、パレードを盛りたてているので、行事には立派に子どもの意思で参画している。				
団体名	小田原市子ども連絡協議会		E-Mail	なし	URL			なし
代表者名	橋本 輝夫		0465-33-1723 小田原市 青少年課	スタッフ	市子連役員、地域役員(学区役員)(付き添い)			
実施時期	平成16年5月3日	参加人数	150人	対象	市内子ども会25学区5,6年生男女3名ずつ	年齢	10～12才	
他団体・組織との連携	小田原市観光協会		活動資金	衣装については用意されている。弁当もある。子供のジュースは市子連活動資金から用意する150本				
趣 旨	伝統行事に参加し地域をより理解し誇りを持つと共に祭りを盛りたてている。							
実施することになったきっかけ	小田原をあげての祭り武者行列に市の団体として参加する。							
事業(活動)内容	少年少女武者隊として市内を隊列を作って行進する。二ヶ所で勝どきをあげる。スタッフは子供の隊列を引率している。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	観光協会に立案しそれに従っている。実行委員会には市子連も参加している。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小田原市観光協会		大人					
3時間位前から着物の着付けをしたり出陣式を炎天下で待ったり、市内を行進して歩くため体調をくずす子どもが出てくるので、観光協会にお願いして出来るだけ子ども会は大目にもってもらっているところもある。 着付けのプロが行進について歩いてくれるが履きなれない「わらじ」に足が痛くなったり着付けない着物が着くずれたり苦勞が多いが帰って来た子どもはとても立派に見えます。								

分類	内容		まつり		市民まつり模擬店出店			
	活動主体		実行委員会(青少年)					
参画の段階	6		その理由	販売は子ども達のみで行ったが、用具や材料の仕入れは大人が行ったから。				
団体名	逗子市子ども連絡協議会		E-Mail	なし	URL			なし
代表者名	小沢 正和		046-873-2976	スタッフ	大人5人、中学生15人			
実施時期	秋の休日	参加人数	15人(中学生)	対象	ジュニアリーダーズクラブ会員	年齢	12～15歳	
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	準備金は市子連事業費だが、売上金から精算し、利益は宿泊研修費用などにあてる。				
趣 旨	将来の子ども会指導者養成の一環として、ジュニアリーダーズクラブ(中高生27名)を運営している。そのILの子ども達に様々な体験の場を与える。							
実施することになったきっかけ	年度初めの全体会議を行い年間の行事を検討して、今年も実施することになったから。							
事業(活動)内容	会場:市民まつりセピアエリア(市第1運動公園) 内容:おでん(250皿)、フランクフルト(300本)、ラムネ(400本)、カップdeチョコばな(100個)・・・新作							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	市子連ジュニアリーダーズクラブのメンバーで販売品目を考え、会場看板や値札などを作成し、当日は会場設営・飾り付けを行いそれぞれ販売する担当を割り振り活動した。ガス器具や鉄板などの用具、材料の仕入れは大人が担当した。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	逗子市子ども連絡協議会		青少年					
企画委員会や実行委員会の開催設定は大人が行ったが、部活や塾などで忙しい中高生の予定を合わせて会議を設定するのに苦勞した。委員会の運営については、ジュニアリーダーの委員長を議長に指名し議事進行を任せるが、会議のやり方、進め方などを適時指導しながら、子どもたちの意見を多く引き出せるよう協力してきた。当日の運営は子どもたちの必死に販売する姿に大人も負けじと競い合うように楽しんでいる。								

< 子ども会議 >

分類	子ども会議		川崎市子ども会議宿泊交流会			
	内容	活動主体	青少年			
参画の段階	6	その理由	多少の失敗もあったが、これまで説明してきたとおりの関わりである。			
団体名	川崎市子ども会議	E-Mail	88syogai@city.kawasaki.jp	URL	なし	
代表者名	川崎市教育委員会生涯学習推進課		044(200)3309	スタッフ	大人14人	
実施時期	8月4日～5日	参加人数	62人(大人24、高校生7、中学生10、小学生31)	対象	川崎市内の子ども	年齢 10～17歳
他団体・組織との連携	他団体・組織との連携:川崎市青少年の家を利用。宮前区子ども会議委員の団体参加。		活動資金	活動資金:食費は自己負担。施設利用費は減免処置。その他の費用は川崎市子ども会議事業費より支出。		
趣 旨	川崎市子ども会議の子どもたちが市内の子どもたちと親睦交流を深める中で、「子どもの権利」を教えあい学びあい、子ども会議活動に興味を持ってもらい、子どものネットワークを広げていく。					
実施することになったきっかけ	川崎市子ども会議委員の発想					
事業(活動)内容	1泊2日の生活を通して、互いに権利を学習しあい、レクリエーションを楽しみ、意見交流をはかった。					
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	企画、立案、運営計画、当日の進行について、子ども会議委員が中心にすべてを行い、おとなは支援に徹した。					
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他	
	川崎市子ども会議	青少年				
主催者が子どもの社会参加を推進し、意見表明とその取りまとめに携わる川崎市子ども会議の委員さんたちなので、極力子どもたちの主体的な取り組みを尊重した。昼間の企画推進に関しては大変がんばって感動したが、夜間等、一部の子どもたちがルール違反をした時等に、おとながしゃしゃり出るのは簡単だが、室長、実行正副委員長等の自らの気付きや該当者の自己責任を問うたり、自己解決能力に期待したりと、やはり我々おとなたちにも大きな戸惑いが生じた。おとなの子どもに対する関わり方は難しいものである。						

分類	子ども会議		21世紀淡海子ども未来会議設置運営事業			
	内容	活動主体	NPO法人			
参画の段階	6	その理由	場面によっては7という段階のところも見られることもあるが、時間や施設などの物理的な面についてはおとなの方が設定しなければ活動できないため。			
団体名	県事業(NPOに事業を委託)	E-Mail	EM00@pref.shiga.a.jp	URL	http://www.pref.shiga.jp/bbs4/	
代表者名	滋賀県児童家庭課		077-528-3557	スタッフ	NPO生涯学習研究所ほかサポーター10人前後	
実施時期	7～3月	参加人数	58人(小40、中18)	対象	滋賀県内小学校4年生～中学校3年生	年齢 9～15歳
他団体・組織との連携	組織との連携:県の各地域振興局と連携して実施。		活動資金	-		
趣 旨	次代の主人公である子どもたちの健全な育成を図る観点から、体験学習等を通じて自ら考え、自ら行動する力を引き出すことを支援					
実施することになったきっかけ	子ども権利条約の理念を具体化するものとして、子どもの意見表明や社会参加の場を提供					
事業(活動)内容	小学校4年生から中学校3年生までの子どもたちを公募し、「21世紀淡海子ども未来会議」を設置。県内を4つのブロックに分け、体験学習・研修活動を通じて子どもたちが身近な地域の問題を糸口に社会への理解と関心を高めながら、知事をはじめとする大人への意見表明や意見交換を中心とした大人との交流事業を行う。子どもが主体的に取り組む過程を重視するため、活動内容等は子どもたちの意見を尊重して実施する。					
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	7月の下旬に知事から子ども議員としての任命書を受与され、8月に2泊3日の夏キャンプで、これからの滋賀県内の4つの地域会議の活動テーマを話し合いを通して決定した。本年度のテーマは第1回目(9月)の湖南地域で「ボランティア」、第2回目(11月)の湖西地域で「外来魚」、第3回目(12月)の東近江地域で「近江牛を知ろう」、第4回目(1月)の甲賀地域で「陶芸家になろう」に設定している。その後、地域会議を通して、子どもの目線で滋賀県をよりよいものとするため意見表明の場として、「子ども県議会」を3月の春休みに開催。					
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他	
	NPO生涯学習研究所	大人				
基本的には子どもたちの意見表明をする場としての事業であり、子どもたちにとっては活動の場であるので、自分の思いを相手にどのように伝えるのかということについて、アドバイスできるかわり方を共通理解している。また、次のような体験学習サイクルを基本として、子どもたちが主体的に学べることを期待している。 DO(体験する) LOOK(指摘する) THINK(分析する) GROW(成長する) NextDO(次の体験へ)						

< 子ども会議 >

分類	内容	子ども会議		< 第7回 > 2003 神奈川ふれあい子どもサミット		
	活動主体	NPO				
参画の段階	6	その理由	-			
団体名	神奈川の教育を推進する県民会議	E-Mail	なし	URL	なし	
代表者名	-		-	スタッフ	大人6人(含事務局員2人)、実行委員19人(小学生5人、中学生12人、高校生2人)	
実施時期	平成15年11月8日	参加人数	141人	対象	構成団体の親子、教師、県民	年齢 大人68、高10、中32、小31
他団体・組織との連携	県内各地の「地域ミニ子ども会議」(9団体)	活動資金	S鉄道株式会社からの寄付金			
趣 旨	青少年の豊かな心とたくましく生きる力を育み、テーマに基づく協議や意見交流を深め、自ら考え行動する実践力を培う。					
実施することになったきっかけ	大人の声だけでなく子どもの声も聞く必要から					
事業(活動)内容	県立地球市民かながわプラザにおいて(時間 13:00~16:00)、「地域ミニ子ども会議」の報告、参加者全員によるテーマ「現代の友達関係」に基づいた論議(フリートーク)					
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	19人の小・中・高校生で構成する実行委員会において、テーマ設定、内容の検討(決定)、準備運営等を4人の「サポーター(大人)」の側面支援のもとに行った。					
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他	
	神奈川の教育を推進する県民会議	大人				
できるだけ子どもたちに考えさせ、主体的に取り組ませることにより、子どもたちの「やる気」を引き出すように務めた。						

分類	内容	子ども会議		川崎市子ども夢パーク子ども運営委員会		
	活動主体	運営委員会(青少年)				
参画の段階	5	その理由	設備や運営に子どもたちの意見を生かそうと「運営準備会」ができたが、予算や日程などの都合で、子どもたちの意見を実感に伴うところまで生かすことができなかった。「子ども運営委員会」となった後も、「イベント」や「運営について」といった大人側からの投げかけがあって、話し合いを進めているようなところがあり、必ずしも自主的な活動となっていない。			
団体名	川崎市子ども夢パーク	E-Mail	yumepark@q00.itscom.net	URL	http:// home.h00.itscom.net/yumepark	
代表者名	京 利幸		044-811-2001	スタッフ	-	
実施時期	月1~2回	参加人数	10人前後	対象	川崎市内の小学生から18歳未満の子ども	年齢 小学4年生から18歳未満の子ども
他団体・組織との連携	子ども夢パーク運営委員会、子ども夢パーク支援委員会	活動資金	川崎市子ども夢パークの運営費			
趣 旨	子どもたちが自分で動かしていく場として、自主的な運営を行うため「子ども運営委員会」を設置した。					
実施することになったきっかけ	「川崎市子どもの権利に関する条例(2001年4月1日施行)」に基づいて設置された施設であり、子どもたちの活動拠点、情報発信の場として、自主的活動を支援し、運営に生かすため。					
事業(活動)内容	月1~2回程度の活動日を設け、日常運営のルールやイベントなどについて話し合い、具体的な活動を行う。畑や花壇について、計画を立て、土を耕したり、種や苗の購入・水やり、肥料やり、収穫などを行う。8月1日に1周年記念イベントを企画・運営・実施した。大きなイベントやルール変更については、「川崎市子ども夢パーク運営委員会(行政・財団・スタッフ・支援委員会・関係団体)」に各代表とともに子ども運営委員会委員も出席している。					
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	「川崎市子ども夢・共和国」からはじまり、「仮称川崎市子ども夢パーク推進委員会」、「仮称川崎市子ども夢パーク運営準備会」が夢パークのあり方や運営について協議・検討してきた結果、2003年7月に開所した。川崎市子どもの権利に関する条例(以下「子どもの権利条例」)、川崎市子ども夢パーク条例(以下「夢パーク条例」)に基づき、「子どもの権利条例」の具現化を図り、子どもが自分の責任で遊び、夢を育み、安心していられる居場所として、子どもの子どもによる、子どものための活動の拠点として設置された。子どもたちの話し合いや活動には、夢パークスタッフや支援委員(子ども運営委員会担当)が参加、活動を支援している。「子どもたちとともにつくり続ける施設」というコンセプトから、日常運営やイベントなどについても、ともに話し合い、活動している。					
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他	
	川崎市子ども夢パーク	青少年と大人	-			
土・日曜日など子どもたちの学校休業日に子ども運営委員会を開催している。スタッフと市民が話し合いのサポートとして参加。「お知らせ」文書を送ったり、話し合いのテーマや資料を準備したり、活動に必要な用具の調達など、段取り的なことを大人が行っている。苦労した点、開所するまでの「運営準備会子ども部会」では、「こんな施設がほしい」「こんな施設にしたい」「こういう運営を望む」といった意見集約の場であったため、話し合い中心の活動に参加できる中高生が中心であったが、開所してから実際に利用しているのは近隣の幼児・小学生と家族連れが中心である。開所以降、「つくり続ける施設」として、子どもたちが運営やイベントなどについての話し合いのために集まることが困難になってきた。このことから、利用主体である子どもが自主的活動主体(運営や施設のあり方を考える)となるには、ここが自分の居場所であるという実感や、日々の活動を通して、この居場所をもっとよくなってほしいという欲求、子ども自身のエンパワーメントが必要であることがわかった。しかし、今、遊び中心の子どもたちにこのことを求めるのは性急である。子どもが成人するのと同様に、「成果が出るのはまだまだ先」であろう。今後は、子どもと大人のパートナーシップのなかで子どもたちが育っていくことを保障していきたい。						

分類	内容	スポーツ		大運動会			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	7	その理由	子どもたちが主催者であるため、主体的に取り組んだ。				
団体名	JLC・OF・あやせ	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	綾瀬市青少年課		0467-70-5655	スタッフ	高校生6人、中学生3人		
実施時期	3月	参加人数	33人	対象	市内小学校4～6年生	年齢	9～11歳
他団体・組織との連携	綾瀬市子ども会 育成連絡協議会		活動資金	JLC・OF・あやせ予算より支出			
趣 旨	ジュニアリーダーと小学生が一同に集い、スポーツやレクリエーションゲームを通じて交流を図り、ジュニア活動の楽しさを小学生に理解してもらおう。						
実施することになったきっかけ	ジュニアリーダーの勧誘						
事業(活動)内容	スポーツセンター小体育室において、スポーツ、ダンス、レクリエーションゲームを行う。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	大運動会プログラムについて、子どもたちが中心に考え決定した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり		その他	
	JLC・OF・あやせ		大人				
プログラムの進行を見守った。 会場の予約、文書の発送を行った。 けがをしないように安全に配慮した。							

分類	内容	スポーツ		リーダー企画「秋の行事」			
	活動主体	子ども会					
参画の段階	6	その理由	主運営は大人であるが、企画の段階から子ども達为中心で考え、要所を大人が助言・決定したから。				
団体名	逗子市 子ども会連絡協議会	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	小沢 正和		046-873-2976	スタッフ	大人21人、小学生リーダー8人、協力者18人(大人、高校生、小学生)		
実施時期	秋の休日	参加人数	105人	対象	子ども会会員と家族	年齢	4～12歳
他団体・組織との連携	共催・県立逗子高等学校、 協賛・逗子体操クラブ等		活動資金	市からの補助金、子ども会費を元にした市子連の事業活動費(参加無料)			
趣 旨	将来の子ども会指導者養成の一環として、子どもリーダーたちに自主的に企画運営する機会を与え、様々な体験をしてもらう。						
実施することになったきっかけ	今年はスポーツをやりたいとの子ども達の声で、体操クラブや逗子高校ボランティアセンターの積極的なアプローチがあった。						
事業(活動)内容	会場:県立逗子高等学校体育館 10時～15時 体験コーナー:跳馬、鉄棒、吊り輪、平均台、トランポリン チャレンジコーナー:輪投げ、ストラックアウト、ヒットベットの、大人の体力測定など とん汁サービスあり 前年は「みんなDEウォーク」						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	6月のリーダー養成研修会(1泊2日)の中で、「秋の行事」について子ども達が話し合い、方向性を決めた後、企画運営メンバーを選出して実行委員会を構成し、企画案を具体化していく。基本的に子ども達の意見・希望を大切にしながら、育成者が必要な助言をして決定した。チャレンジコーナーは子どもリーダーたちが担当し、模範演技は逗子体操クラブの子どもたちが行い、会場の設定は逗子高校ボランティアセンターの生徒が企画した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり		その他	
	逗子市子ども会連絡協議会		青少年と大人				
実行委員会では、話し合いの進め方やまとめ方など適時指導しながら子どもたちの意見が多く出るように支援してきた。当日は子どもたちと共同して運営するよう努力している。つつい大人の方が夢中になってしまい、でしゃばってしまうこともある。							

<スポーツ>

分類	内容	スポーツ		球技大会			
	活動主体	子ども会					
参画の段階	4	その理由	子どもは参加するのみであるが楽しんでいる。				
団体名	小田原市子ども連絡協議会	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	橋本 輝夫		0465-33-1723 小田原市 青少年課	スタッフ	小田原市子連、地域役員 140名位		
実施時期	平成15年10月25日	参加人数	約1,500人	対象	市内子ども会会員 (小学1～6年生)	年齢	6～12才
他団体・組織との連携	市内小学校(4校が会場となる)		活動資金	小田原市の委託事業のため予算があるので予算内で行う			
趣 旨	スポーツを通して学区を越えた子ども同士の交流、親睦を深める。						
実施することになったきっかけ	25学区の交流、親睦のため						
事業(活動)内容	キックベースボール、ドッジボールを市内小学校、4会場を借りて行う。学区の参加する子どもを集めて当日の朝グループ分けをして試合を展開していく。(17年度メディングボール、ドッジボール)						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	市子連企画委員会が提案し、実行委員会(地域役員)が決定する。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	小田原市子ども連絡協議会	大人					
	・当日集まった子どもでチーム分けをするため、初めが忙しくなるがチーム分けがスムーズに行くように工夫している。 ・1年生から6年生までいるのでルールや試合の展開に差がありとても苦労する。 ・1,2年生は男女混合でチーム作り、3,4年生、5,6年生は男子チーム女子チーム作りをする。 ・1,2年生はキックベースボールを知らない子がいるので、男性の方(得意な人)にお願いしたりする。						

分類	内容	スポーツ		スポーツ大会兼親睦会			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	8	その理由	高校生がこの事業を「やりたい」と発案し、大人の方と協力して行ったから				
団体名	茅ヶ崎市ジュニアリーダーズクラブ	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	神名部 義裕		080-5439-1336	スタッフ	高校生(8人)大人(4人)		
実施時期	平成16年8月8日	参加人数	42人	対象	茅ヶ崎市ジュニアリーダーズクラブの会員、保護者等	年齢	13～64歳
他団体・組織との連携	茅ヶ崎市子ども連絡協議会、香川公民館、鶴ヶ台小学校		活動資金	茅ヶ崎市子ども連絡協議会からの助成金1万5千円を使い、参加費は無し			
趣 旨	日頃の活動報告をし交流することにより、保護者の方をはじめとする茅ヶ崎市JICを支えてくださっている方により、一層のご理解をして頂き、これからの活動をさらに活発なものにする。						
実施することになったきっかけ	自分たちの活動をもっと知ってほしいという意見が高校生会議の中で出たから						
事業(活動)内容	レクリエーション・スポーツ大会(バスケット&バレー)・座談会(活動報告・関ブロ体験談・中学生の帰宅時間や派遣についての話し合い)・縁日						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	目標・予算・当日のプログラムについては高校生が考え、場所の確保は大人の方に頼みました。プログラムについては高校生の意見が中心だが、基本的には中学生や大人の意見も取り入れ、「目標に沿った」プログラムになるよう注意した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	茅ヶ崎市ジュニアリーダーズクラブ	青少年					
	大きな事業だけに準備や企画が大変だったが、その分やりがいがあった。目標に沿ったプログラムを考えることでプログラム自体に味が出たのではないだろうか？ただ、準備期間が1ヶ月しかなく、内容を煮詰めきれなかったのが残念だった。また、大人の方が参加が少なかった上に入りが激しく、せっかく一生懸命やったのに悔しくて仕方がなかった。						

< 地域活動 >

分類	内容	地域活動		平塚市ジュニア・リーダーズクラブ			
	活動主体	ジュニアリーダー					
参画の段階	7	その理由	上記のとおりクラブ生が中心であり、「事例8」のように大人を巻き込むという点では、活動の内容は自分達が行うものであって大人はあくまでも見守って欲しいという方針のため7とした。				
団体名	平塚市ジュニア・リーダーズクラブ	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	平塚市民部 青少年課		0463-32-7029	スタッフ	クラブ生が開催する各定例会には、クラブ生の中からその定例会に対する担当長などの中心メンバーをそれぞれ決めている。		
実施時期	通年	参加人数	109人 (本年度会員数)	対象	平塚市ジュニア・リーダー養成講習会を修了した者	年齢	中学2年生～ 高校3年生
他団体・組織との連携	各地区子ども会・平塚市青少年課	活動資金	年会費1,600円にて、ボランティア保険への加入や新規加入者のネームプレート作り、その他活動に必要な物品を購入している。				
趣 旨	余暇を利用して自己を鍛え、仲間づくりをはかり、青少年関係団体活動への協力及び地域社会への参加を通じて明るい街づくりに役立つ活動を行う。						
実施することになったきっかけ	昭和57年に、第1期平塚市中学生リーダー養成講習会(第2期より平塚市ジュニア・リーダー養成講習会と改名)の卒業生30人によって自主的に結成された団体。						
事業(活動)内容	余暇を利用して自己を鍛え、仲間づくりをはかり、青少年関係団体活動への協力及び地域社会への参加を通じて明るい街づくりに役立つ活動を行うことを目的とする。青少年課事業への協力・参加や、各地区子ども会へ行きゲーム指導を行ったり、リーダーとしての資質向上のため自主的に定例会を行いお互いの意識を高めたりする。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	会の会長を中心に、各活動に対する計画や準備を行っている。行政側は活動する施設の予約や各事業開催中の安全管理等、事務的な分野でサポートを行っている。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	平塚市民部青少年課	青少年	(一部の事業で)				
基本的に会の運営はクラブ生のみで行うが、中・高校生のための施設予約の際に不都合が生じたり連絡が行き届かない事なども考慮し、担当という形で青少年課職員がサポートを行っている。キャンプ等では決定した食材の発注や安全管理、施設の予約やバスの手配、使用料などの金銭的受け渡しを中心に職員が行い、内容に関しては疑問点があったときに一緒に考える程度である。							

分類	内容	地域活動		わくわく冒険隊			
	活動主体	NPO					
参画の段階	6	その理由	子どもが全体的に参画しているが、主体的に取り組む力が不足しているため。				
団体名	わくわく冒険隊	E-Mail	m-yasnet @beige.plala .or.jp	URL http:// www14.plala.or.jp/tqi-sato/			
代表者名	安川 源通		-	スタッフ	大人4人、子どもリーダー5人(小学校高学年)		
実施時期	通年	参加人数	30～140人	対象	小学生～大人	年齢	6～60歳
他団体・組織との連携	冒険遊び場つくい、津久井町一周山歩き隊	活動資金	今年度については、ニッセイ財団より助成				
趣 旨	身近な自然との体験活動と社会奉仕(森づくり)						
実施することになったきっかけ	子どもたちや町民に身近な自然とのふれあいを持たせたかった。						
事業(活動)内容	津久井町の裏山(中野山)を中心に年間を通じて自然体験活動を行う。また、町民の憩いの場とするため、道標設置やハイキングコースの整備を行っている。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	イベント実施の前段で、子どもリーダー会議を3～5回開催して、内容を検討する。また、当日の運営も子どもが中心となる。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	わくわく冒険隊	青少年と大人	～				
企画・準備・運営・片づけの過程の中で、大人が手助けをし過ぎるのに苦労した。森づくりをするための地権者との接触・交渉が難航している。資金不足にするための活動停滞。中高生の参加が少ない。							

< 地域活動 >

分類	内容	地域活動		港南区こどもフォーラム			
	活動主体	青少年健全育成会					
参画の段階	4	その理由	事業の流れは大人が主に決めるため				
団体名	青少年健全育成を推進する会	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	港南区役所 地域振興課		045-847-8395	スタッフ	助言者(区内学校教諭9人、地域から大人9人)		
実施時期	7~10月	参加人数	120人	対象	港南区内小中学生	年齢	10~15歳
他団体・組織との連携	港南区役所共催、区内小学校		活動資金	区からの補助金			
趣 旨	区内の小中学生から構成される委員が企画・運営を行い、子どもと大人の交流ある地域づくりを目指す。						
実施することになったきっかけ	子どもから大人まで心が通い合う区づくりを目指すため						
事業(活動)内容	班ごとに分かれて活動のテーマを決める。 地域活動 まとめ・発表						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	区内の小中学生が運営委員として企画・運営をし、地域でやっていきたいことや大人との協働について主体的に考えていく。大人の助言を得ながら活動を進めていく。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	青少年健全育成を推進する会	大人					
事業計画は事務局(区)が形作りました。事業の具体的内容については、助言者と子どもが力を合わせて企画・運営します。							

分類	内容	地域活動		わくわく冒険隊、ジュニア・シニアクラブ、ユースボランティア			
	活動主体	青少年の団体					
参画の段階	7	その理由	子供達で企画から実行までを行っている。				
団体名	大和ユースクラブ	E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	大和市 青少年センター		046-260-5224	スタッフ	大人3人 子ども6人		
実施時期	通年	参加人数	延べ1,457人	対象	わくわく:小5・6、JL/SL:中1~高3、ユ-ボ:高卒年齢以降の青年	年齢	10歳~高校卒業以降(相当)
他団体・組織との連携	大和市青少年指導員連絡協議会、大和市子ども会連絡協議会、大和市母親クラブ連絡協議会		活動資金	市からの委託金 ¥ 1,150,000 ほかに参加者負担(実費)あり			
趣 旨	青少年の成長と発達の特長及び発達課題を踏まえ、自主性・活動性・協調性を十分に発揮できるようなプログラムを実施することにより、自己決定能力を育成し、リーダーシップ・メンバーシップを実体験の中で学習する機会を提供する。						
実施することになったきっかけ	ユースクラブ発足前は、ジュニアリーダー研修会・青年リーダー研修会といった名称で、年間十数回程度の活動をしてきたが、活動の内容・形態を抜本的に改め、小学5・6年生を含めた組織として「大和ユースクラブ」を組織。当初は小学生・中高生・青年層の各組織は、連携をとりあう別々の組織であったが、平成10年度に3つの組織を一体化。現在に至る。						
事業(活動)内容	レクリエーションゲーム実習、野外活動実習、社会参加事業、ボランティア事業、宿泊研修など なお、ジュニア・シニアクラブはわくわく冒険隊の支援、ユースボランティアはジュニア・シニアクラブの支援も行なう。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	学校や地域・家庭では出来ない活動を、年間を通して参加している子ども達自身が企画・立案・運営・実施を行なった。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	大和ユースクラブ	青少年					
企画から実行までできるだけ子どもたちにやらせることで各種資質を養うとともに、将来の青少年育成指導者の育成発掘をもその狙いとしている。年間を通して積極的に活動を展開しているが、平成10年の発足から6年が経過する中で、近年は行事がマンネリ化しつつあるため、今後は新しい事業展開の模索が早急の課題となっている。							

< ボランティア体験活動 >

分類	内容		ボランティア体験活動		高齢者とのふれあい活動 アニマルセラピー			
	活動主体		高校生					
参画の段階	7		その理由	毎回事前に生徒のミーティングにて話し合いをし、計画を立てて積極的に行っているため				
団体名	日本大学藤沢高等学校生物部		E-Mail	なし	URL http:// www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp			
代表者名	以西 千春		0466-81-0123	スタッフ	大人1人、高校生(生物部)14人			
実施時期	年間約7回		参加人数	65人	対象	老人保健施設 ソフィア横浜	年齢	50~90才(認知症の方)
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	部費を一部充当。費用はほとんどかからない。動物の飼育費は除く。				
趣 旨	生物部で飼育している小動物を連れて行き、単調になりがちな施設での生活に動物とふれあうことにより少しでも楽しんでもらおうというボランティア活動							
実施することになったきっかけ	卒業生の父の勤務先で「アニマルセラピー」の依頼を受けたこと							
事業(活動)内容	動物と触れ合うことで認知症の方や高齢者の気持ちが落ち着いたり精神的に安心感を得る「アニマルセラピー」。これを行うために小動物を連れて施設への慰問を行っている。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	事前に施設で行うプログラム(七夕、クリスマス会などのイベント)を計画し、千代紙で製作したりクイズ作りをするなど生徒の案で計画して行っている。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	日本大学藤沢高等学校 生物部		青少年と大人		-		-	
<p>新入生はアニマルセラピーのことを知らずに入学してくるため先輩から後輩へと実践を通じて教わっていく。その中で認知症の方や高齢者と接することが普段ないために、最初戸惑う生徒も多い。回数を重ねるごとに「次回はこうしよう」などと自ら提案するようになり、積極的に取り組むことができるようになった。アニマルセラピーの日程決めや相手との連絡は顧問を通して行っている。生徒の反応も良好で前向きに取り組んでいる。</p>								

分類	内容		ボランティア体験活動		青少年のボランティア体験活動			
	活動主体		社団法人					
参画の段階	6		その理由	主催者(共催・協力を含む)は大人であり、中高生の主体性・自主性を引き出す。				
団体名	(社)神奈川県青少年協会		E-Mail	info@kya.or.jp	URL http:// www.kya.or.jp/			
代表者名	理事長 吉村恭二		045-402-0346	スタッフ	大人30人、高校生20人			
実施時期	夏休み3日程度		参加人数	260人	対象	神奈川県内在住・在学	年齢	12~18歳
他団体・組織との連携	厚木市、相模原市、茅ヶ崎市、大和市、各市社会福祉協議会、ボランティアセンター、NPOセンター他		活動資金	参加者負担金(保険料、教材費)、協会事業費(講師料・報告書他)				
趣 旨	自分たちがやりたいボランティアを見つけ、自分たちで連絡を取りながら活動を体験する支援を行う。							
実施することになったきっかけ	身近なところでボランティア体験できる機会がないとの声							
事業(活動)内容	4地区ごとに、「環境保全」「児童保育施設」「動物愛護」等の中から自分がやりたい活動を選び、受け入れ側と連絡を取りながら、3~4日間活動を体験し、報告書をまとめる。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	これまでも社会福祉協議会を中心にボランティア体験事業が実施されていたが、福祉中心であったため、「自分がやりたいボランティアがない」との声を受けて、高校を中心に、どのようなボランティアを体験したいのか、実行委員会を設けて実施している。またすべて大人側で準備・実施するのではなく、受入側団体施設等と中高生に紹介する方式で、自分たちで選び、自分たちで連絡しながら体験する。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	(社)神奈川県青少年協会		青少年と大人		-		-	
<p>青少年自身がどのようなボランティアを体験したいのか、自主性を大切にすること 中学生・高校生を受け入れてもらえる団体・施設等の開拓 ふりかえりを大切に、その後の活動につなげていくこと 実行委員会には過去に参加経験のある若者を入れること</p>								

< イベント >

分類	内容		イベント		わくわくホリデープラン この指止まれ！			
	活動主体		JL					
参画の段階	6		その理由	きっかけは大人が作ったが、企画段階から子どもたちの考えをできる限り取り入れていくようにした。				
団体名	愛川町教育委員会・ジュニアリーダーズクラブ		E-Mail	shogaigakusy@town.aikawa.kanagawa.jp	URL http:// http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/			
代表者名	愛川町教育委員会生涯学習課		046-285-2111 内線528	スタッフ	ジュニアリーダー、町職員			
実施時期	年間2回	参加人数	活動内容により決定	対象	町内在住の小中学生	年齢	6～15歳	
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	町の委託金(ジュニアリーダーズクラブの活動を青少年指導員連絡協議会に委託)				
趣 旨	子どもたちが自ら計画し、協議し、行動することで、自主性や協調性を養うと同時に、事業をなし終えた成就感を味わい、「生きる力」をつける。							
実施することになったきっかけ	町で実施した学校5日制のアンケート結果より、子どもたちが自ら計画を立てて、みんなと何かしたいという願望があることがわかった。							
事業(活動)内容	町内の公園でハイキング(フィールドアスレチック・レクリエーション)、地球市民かながわプラザ見学、インドカレー調理及び試食会							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	休日における教室やイベントに関するアイデアを子どもたちから募集し、それをもとに、ジュニアリーダーが中心となって活動を企画し、応募者と相談しながら計画し当日の運営もした。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	愛川町教育委員会		青少年と大人					
できるだけ、子どもたちに考えさせることで、主体性を持たせた。プログラムの組み立て方、募集方法・場所の選択、安全面での配慮等、経験不足を補うようにした。								

分類	内容		イベント		あそびっこ隊			
	活動主体		青少年の団体					
参画の段階	7		その理由	周りの大人を巻き込むにいたっていないから。				
団体名	さがみちびっこクラブ		E-Mail	-	URL なし			
代表者名	宮腰 晃裕		042-769-8289 相模原市 青少年課	スタッフ	平均25名(スタッフ7名含む) 高校生～社会人で構成			
実施時期	年間10回(予定)	参加人数	延約60人 (4回まで)	対象	小学生全学年	年齢	6～12歳	
他団体・組織との連携	東京工芸大学 大久保研究室		活動資金	参加費(実費)やクラブの活動資金から物品の購入				
趣 旨	様々な新しい企画を行うことで参加者の興味の幅を広げ、何事にも失敗を恐れず挑戦する精神を養う							
実施することになったきっかけ	私たちの視点を活かした事業をやりたいと考えたから							
事業(活動)内容	高校生～社会人の青年が地域の子どものために実施する若者ならではの事業 第1回「みんなでウォークラリー」 地図を頼りに普段歩いている地域でウォークラリーを行いました。 第2回「集まれ！未来の建築士」 紙とはさみで理想の部屋を作りました。 第3回「どきどき！ちびっこレストラン」 みんなで好きな具材を話し合い、買い物をして、お昼ご飯を作ってもらいました。 第4回「動け！がたがたアニメーション」 デジタルカメラで撮った画像を連続で見ることでアニメのようにして楽しみました。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	企画・準備・実行のすべてを通してちびっこクラブのメンバーで行っています。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	さがみちびっこクラブ		青少年				大人の関与がほぼない	
自分たちの方向性が見えきれていない活動であるため、企画内容・目的が絞れていない。また、大人からの信用が確立できていなかったり、資金面や企画実行場所の確保が困難であったり、スタッフ不足といった様々な問題があり、活動範囲や内容を広げたいと思っても難しいのが現状です。								

< 宿泊体験 >

分類	内容		宿泊体験		中学生とのつどい			
	活動主体		青指協					
参画の段階	6		その理由	プログラムの一部のみを担当させたことで、無理な負担もなく、ジュニアリーダーと十分な話し合いもでき、終了後の反省会では、双方に達成感が感じられた。				
団体名	箱根町青少年指導員連絡協議会	E-Mail	なし	URL	なし			
代表者名	会長 加藤修司		0460-5-7601	スタッフ	青少年指導員17人、リーダースクール受講生7人			
実施時期	平成16年3月28日～29日 1泊2日	参加人数	参加人数 36人 (指導員17人、 中学1年生10人、 ジュニア7人)	対象	中学1年生	年齢	13歳	
他団体・組織との連携	青少年指導員連・協委託金のほか、参加者から、参加費(食費、保険料など)を徴収している。		活動資金	青少年指導員連・協委託金のほか、参加者から、参加費(食費、保険料など)を徴収している。				
趣 旨	趣旨:1泊2日の宿泊生活を通じて、楽しく過ごすために守らなければならないルールや、助け合い、協力し合うことの大切さを、青少年指導員と一緒に話し合い、考える。							
実施することになったきっかけ	実施することになったきっかけ:青少年指導員が、中学生と本音で話し合える場をもちたいという思いから							
事業(活動)内容	県立足柄ふれあいの村(南足柄市)を会場とした、1泊2日の宿泊体験事業。青少年指導員(とジュニアリーダー)と、中学生と一緒にあって、ハイキングや炊事、レクリエーションゲームなどを行うもの。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	青少年指導員連絡協議会での当初の話し合いの中では、1泊2日のすべてのプログラムをジュニアリーダーに計画させ、青少年指導員がサポートしながら事業を運営することを、リーダースクールのカリキュラムに位置づけていたものであるが、リーダースクールの進行が遅れてしまい、結局、プログラムの中のレクリエーションゲームの部分のみを、ジュニアリーダーと青少年指導員とで話し合い、実際の運営を担当させた。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	箱根町青少年指導員連絡協議会		青少年と大人					
	今回の事業(プログラムの企画・運営)に参加したジュニアリーダーは、過去に全員が、この事業に参加した経験があったことから、事業の目的や内容の説明はある程度省略し、「自分だったらこうしたい」という話し合いに終始できた。基本的には、「1時間30分の時間をどのように中学生と過すか」に重点をおき、企画・運営をジュニアリーダーにすべて任せ、青少年指導員は、時間の管理や会場内の安全確保に努め、声小さくなった時や“間”が悪い時などに、サポートするに留まった。							

分類	内容		宿泊体験		自然ふれあい教室			
	活動主体		実行委員会					
参画の段階	8		その理由	実行委員が率先してやってくれた。実行委員一人ひとりが自覚をしっかりと持ち参加者を引っ張っており、参加者はもちろんの事、実行委員もこの事業を通して絆が深まった。				
団体名	自然ふれあい教室実行委員会	E-Mail	youth@cityfujisawa.ne.jp	URL	http://www.cityfujisawa.ne.jp/~youth			
代表者名	(財)藤沢市青少年協会		0466-25-5215	スタッフ	-			
実施時期	1月10～12日(2泊3日)	参加人数	40人	対象	藤沢市内在学・在住の小学5,6年生	年齢	11～12歳	
他団体・組織との連携	後援として藤沢市教育委員会		活動資金	委託費 765,000円				
趣 旨	雪の冷たさ、柔らかさを感じ雪をおとして自然への体験をし子どもたちに理解してもらおう。また、様々な活動をおとして、主体性・自主性を育み、仲間とのふれあいを深めながら、人とのつながりを感じることを目的としている。							
実施することになったきっかけ	藤沢では体験のできない自然の中で活動をさせたかった。							
事業(活動)内容	藤沢市内の小学校に募集をかけ、約230人の中から実行委員会で選考を行い、選ばれた40人が参加できる。2泊とも長野県のハヶ岳野外体験教室で1日目は体験教室から少し離れたグラウンドで雪上フラッグなどの運動会を行ない、2日目はハヶ岳の上の方にある美鈴池までハイキングのあと凍った池の上で遊んだり、ソリ遊びを行い、夜にはナイトウォークを行なった。3日目は宿泊施設内の清掃や3日間のふりかえりなどをし終了した。							
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	企画運営、安全面、体調管理の事などを職員と一緒に考えた。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	(財)藤沢市青少年協会		青少年と大人					
	冬の雪山ということもあり、安全面の確保が最大のポイントであったため、そのことを全実行委員が認識するように心がけた。また、会議を行っている最中に議題からはずれてしまったりした場合には職員が関わり、誘導した。							

< 体験活動 >

分類	内容		体験活動		よこはまこどもマリンスクール			
	活動主体		社団法人					
参画の段階	4		その理由	大人が主催者であり、なおかつ、計画は大人側で作成されており、子ども(リーダー)は当日の割り当てられた役割の中での活動となるから。				
団体名	(社)横浜市レクリエーション協会		E-Mail	hamarec@m18.apha-net.ne.jp	URL http:// www.hamaspo.com/rec/			
代表者名	(社)横浜市レクリエーション協会			045-671-5050	スタッフ	大人38人、大学生34人		
実施時期	通年		参加人数	248人(大人38,大学生34,児童176)	対象	市内小学校4~6年生	年齢	9~12歳
他団体・組織との連携	横浜市水泳協会,帆船日本丸記念財団,野島青少年研修センター,南伊豆臨海学園,子ども自然公園野外活動センター,三ツ沢公園青少年野外活動センター		活動資金	(社)横浜市レクリエーション協会への委託金(15年度 6,650,000円、16年度 6,615,000円)及び利用者負担金一人あたり65,000円				
趣 旨	日本丸や南伊豆臨海学園などの海に関する施設を活用し、海事思想の普及と青少年の健全育成を図る。							
実施することになったきっかけ	帆船日本丸の横浜誘致を契機として、21世紀を担うたくましい「はまっこ」を育てること目的として始まった。							
事業(活動)内容	1年単位のプログラムに沿って、月1~2回の活動を実施(日帰り13日、宿泊11日の計24日):平成16年のプログラム...6月 開校式(オリエンテーション等)及び野島合宿訓練(班別編成、友達作り、手旗訓練等) 7月 日本丸海洋教室 (甲板みがき、カッター訓練、講義、操帆訓練、結索訓練) 8月 水泳教室(自然教室に向けた水泳訓練)及び南伊豆自然教室(海や自然に関する勉強、カッター訓練、遠泳訓練、いかだ作り、ハイキング、キャンプファイヤー、ナイトハイク) 9~2月 定例会(甲板みがき、手旗訓練、ロープワーク他、各月ごとに水中運動会、炊飯訓練、餅つき、ウォークラリー等) 3月 日本丸海洋教室 (甲板みがき、手旗訓練、カッターレース、運動会等)及び閉校式							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	毎年、大幅なプログラムの変更がないため、細かい修正を大人が行う。小学生は8班に分割され、各班にリーダーと呼ばれる大学生を配置して各事業を実施している。つまり、計画段階では、リーダーの参加はないが、活動当日はリーダーが中心となって小学生と接しながら、事業を実施している。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	横浜市教育委員会		大人					
	プログラム自体がほぼ完成している事業のため、各リーダーには基本的にプログラムから外れることがないが、大人から修正を求めることはないが、アドバイスや助言は適宜行い、リーダーのモチベーションの維持向上に努めた。原則的に資金や会場を含めた計画づくり、当日の健康管理(救護等)、安全管理が大人の役割となっている。							

分類	内容		体験活動		子ども会活性化事業「うどん作りを体験しよう」			
	活動主体		子ども会					
参画の段階	6		その理由	あくまでも子どもたちが主役で、企画段階から考え、大人は活動のサポートに徹したから。				
団体名	小金原単位子ども会育成会		E-Mail	なし	URL なし			
代表者名	木村 陽子		Tel	046-250-0241	スタッフ	-		
実施時期	夏休み		参加人数	40人	対象	小鮎小学校区 小金原子ども会会員1~6年生	年齢	6~12歳
他団体・組織との連携	厚木市立七沢自然教室		活動資金	市からの交付金 16,000円(小学校区単位子ども会活性化事業)				
趣 旨	子どもたち自らが計画・立案した事業を具体化させ、本来の子ども会活動の楽しさや、地域でのコミュニケーションを図り、生きる力を育む。							
実施することになったきっかけ	何が物づくりをしてみたいという声							
事業(活動)内容	七沢自然教室において、うどん作りや森林ゲーム等を行う。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	うどん作りの企画、グループ分け、ゲーム等レクリエーションの企画を、子どもたちが中心となり考えた。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小金原単位子ども会育成会		青少年					
	実際のうどん作りの作業は子どもたちに任せるように心がけたが、計画や準備で大人が御膳立てしてしまった部分があり、もう少し子どもたちが中心的に活動ができるよう環境づくりが必要であると思う。							

< その他 >

分類	内容	冒険遊び場		冒険遊び場つくいの遊びの日			
	活動主体	NPO					
参画の段階	6	その理由	大人が遊びや遊びの道具・材料を用意するが、どの遊びをするかは子どもたちが選んでいる。				
団体名	冒険遊び場つくい	E-Mail	kotaryu2@ybb.n e.jp	URL http:// www14.plala.or.jp/tqi-sato/			
代表者名	稲田浩一		-	スタッフ	6人		
実施時期	第2・3土曜日	参加人数	スタッフ6人 子ども 20人程度	対 象	小学生以上(未就学児は保 護者同伴)	年 齢	主に小学生(未 就学児は保護者 同伴)
他団体・組織との連携	わくわく冒険隊と交流あり。中 野小PTAサークルのひとつ		活動資金	ろうきんの助成金 年間30万円			
趣 旨	大人も子ども自然の中でのびのびと遊ぶ。						
実施することになったきっかけ	子どもたちが外で遊んでいない。ゲームばかりやっている。						
事業(活動)内容	自然の中(津久井湖城山公園根小屋地区)で自由に遊べる場所を設定していっしょに遊ぶ。 木の幹にブランコを設置したり(滑車ロープ、ハンモックなども) 木工具、スコープ、ロープなどを用意したりしている。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	子どもたち(主に小学生)は当日遊びに来て自由に遊ぶ。前もって計画などはしていない。 特に参画しているというわけではない。 当日は子ども主体で好きにやっている(青少年は参画していない。少年は来るが。)						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり		その他	
	冒険遊び場つくい		大人				
大人(スタッフ)は、遊び場を探し、遊びの道具や材料を調達するための資金を見つけ、遊びの日のお知らせを出す。子どもたちの遊びに、基本的には口を出さず手助けする。危険な状況になれば、注意をする。							

分類	内容	広場あそび		あそぼう会			
	活動主体	青少年グループ					
参画の段階	8	その理由	より良い活動とするために地域の大人として、また参加させる親として意見を求められたり協力を依頼された。大人も一緒に遊びに参加した。				
団体名	特定非営利活動法人 松戸子ども劇場	E-Mail	mkg@cside5.jp	URL http:// mkg.cside5.jp			
代表者名	渡辺 洋子		047-386-9154	スタッフ	青年10人、高校生8人		
実施時期	平成15年4月～16年7 月まで	参加人数	延べ350人	対 象	小学生	年 齢	6～20歳代
他団体・組織との連携	なし		活動資金	ちば市民活動サポートクラブ「一歩くん基金」助成金25万円を、 スタッフ交通費、広報宣伝費とした。			
趣 旨	小学生から20代の若者が、異年齢集団となって市内の公園で身体を使って遊ぶ楽しさを味わう。また、地域の縦のつながりが生まれ、 安心した街づくりにつながる。						
実施することになったきっかけ	小さい頃に年上のお兄さんお姉さんと遊んでもらった経験のある若者が、近頃公園で子どもの姿を見かけなくな って、一緒に遊びたいと提案。						
事業(活動)内容	毎月第3土曜日午後2時～4時30分まで、市内の公園でゲームリーダーの中学生・高校生・青年が、遊びに来た小学生とともに「だるま さんがころんだ」「しっぽとり」「手つなぎ鬼」などルール簡単な身体を使った遊びをする。						
青少年がどのように参画して事業活動を進めたか	実施するきっかけから、その後の広報活動、活動資金の調達、当日の遊びのプログラム、安全面の配慮など当会の青年理事を中心に 大人も協力しながら行った。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり		その他	
	松戸子ども劇場		青少年				
近隣の小学校やPTAとつながりのある大人の協力を得て広報・宣伝を行った。安全管理の面では、青少年でつくる実行委員会に対し 大人も意見を出し、一緒に決定した。							

< その他 >

分類	内容		ナイトウォーク		ナイト・ウォーク2003			
	活動主体		シニア・リーダー					
参画の段階	7		その理由	すべてにおいて青少年が運営している。				
団体名	小田原市シニア・リーダーズ・クラブ	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL http:// www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen				
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	小田原市シニア・リーダーズ・クラブ会員			
実施時期	平成15年8月	参加人数	14人	対象	学生、社会人	年齢	18～30歳	
他団体・組織との連携			なし	活動資金	クラブの予算			
趣 旨	普段外出することのない時間帯に歩き、話をしながらたくさんの仲間を作る。							
実施することになったきっかけ	企画運営技術のレベルアップを図る。							
事業(活動)内容	例年は、参加者を一般から募集し、グループ分けし、市内約20キロのコースを歩く。途中、休憩ポイントで小さなイベントを行う。ただし、この年は台風の襲来で中止となり、後日、クラブの会員だけで予定したコースを歩いた。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	コース設定、イベントの企画などすべてにおいて青少年によって運営されている。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	小田原市シニア・リーダーズ・クラブ		青少年					
夜間のため、近隣への迷惑行為の防止、交通事故防止等に大人が関わっている。								

分類	内容		レクゲーム		ふれあいレクリエーション			
	活動主体		子ども会					
参画の段階	6		その理由	企画等については、ジュニアリーダーが中心となり進めたが、大人と相談しながら最終的に決定したから。				
団体名	愛川町子ども会連絡協議会、愛川町教育委員会、愛川町老人クラブ連合会	E-Mail	shogaigakusyu@town.aikawa.kanagawa.jp	URL http:// www.town.aikawa.kanagawa.jp/				
代表者名	愛川町教育委員会 生涯学習課		046-285-2111 内線528	スタッフ	子ども、ジュニアリーダー、老人会・子ども会役員			
実施時期	平成15年11月	参加人数	1,904人	対象	町内在住の小学生、老人(老人クラブ加入者他)	年齢	6～75歳	
他団体・組織との連携			-	活動資金	町の交流事業委託料及び各地区負担金			
趣 旨	小学校区児童と高齢者を対象に、レクリエーションやゲームを楽しみ、子ども相互の親睦と高齢者とのふれあいを図り、地域づくりの一助とする。							
実施することになったきっかけ	子ども会、老人会それぞれの活動だけでなく、これを地域全体に広げ幅広い交流とふれあいを図り地域づくりの一助とする。							
事業(活動)内容	各小学校区ごとに子どもと老人が一緒となってレクリエーションやゲームを実施(こま回し、竹とんぼづくり、ペットボトルボーリング、パルーンアート、フリスビー作り、牛乳パッククラフト、輪投げ、くつ飛ばし、玉入れ、ウルトラクイズ、吹き矢、割り箸鉄砲)							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	ジュニアリーダーが中心となり、活動内容の事前の話し合いが行われ、当日も積極的な進行を行い行事を盛り上げた。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	愛川町子ども会連絡協議会、愛川町教育委員会、愛川町老人クラブ連合会		青少年と大人					
単位子ども会加入者のみならず各小学校区ごとの生徒全員を対象としたことに大きな活動の意味を見いだすことができた。参加者が増えることはよいが、その分各地区の負担割合が多くなってしまふ。								

分類	内容	きもだめし		きもだめし大会			
	活動主体	育成会					
参画の段階	6	その理由	子どもと大人で作っている事業であるから				
団体名	善行地区 青少年育成協力会	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	善行公民館		0466-81-4331	スタッフ	-		
実施時期	7月16日	参加人数	340人	対象	小学生(参加者)、中学生 (おばけ・手伝いスタッフ)	年齢	13~15歳
他団体・組織との連携	大越小、善行小、善行中PT A、三者ふれあいネットワーク		活動資金	参加者から300円の負担(カレー代)、三者ふれあいネットワークより30,000円、青少協より62,917円			
趣 旨	地域の活動参加が少なく中学生のおばけを中心にして、地域と学校が協力し、仲間づくりや善行の自然の豊かさを体験する。						
実施することになったきっかけ	地域活動に小中学生の参加を求める。						
事業(活動)内容	善行小学校及び石川東地区一帯を使ったきもだめし大会。参加者は小学生、中学生はおばけ役及び運営の手伝いスタッフ。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	おばけ役は材料費2,000円以内で衣装等をそろえ企画した。又、手伝いスタッフは受付及び小学生の引率をした。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	善行地区青少年育成協力会	大人					
「おばけ」については企画案を提出させ、それに対して賞を与えた。又、参加小学生には歩いて怖かった「おばけ」を選出させ、1位、2位、3位のおばけに賞状・記念品を与えた。苦勞した点は、子どもたちの健康面及び安全面(参加小学生の終了後の親の引き取り)。							

分類	内容	演劇		教育を守る会50周年記念事業			
	活動主体	NPO					
参画の段階	6と7の間	その理由	予算がかなり必要だったこと、見せる対象が子どもと大人だったこと。				
団体名	神奈川県教育を守る会	E-Mail	-	URL	なし		
代表者名	浅見 聡		045-241-3531	スタッフ	-		
実施時期	平成16年6月26日	参加人数	250人	対象	会員、市民・子どもたち	年齢	12~70歳
他団体・組織との連携	教職員を中心とした合唱団、障害者のグループ、外国籍の子等		活動資金	県教育を守る会、支部教育を守る会他支援金寄付・チケット代など合わせて50万、子ども達の交通費、出演者の謝礼、会場費などに使用			
趣 旨	教育を守る会の50年を祝うと共にこれからの教育を子ども達と考える。						
実施することになったきっかけ	50周年という節目を迎えた。						
事業(活動)内容	横須賀支部の子ども達が、子ども会議を6年間積み重ねてきた。その成果を構成劇という形式で発表、関連団体のステージと主催・来賓のあいさつも交えた。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	中・高校生が「子どもの権利条約」を作りたいと考えるに至ったことを、自分自身の言葉で劇に取り入れたり、メッセージとして発表した。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	神奈川県教育を守る会	青少年と大人	~		構成劇は脚本として大人がまとめた発言などは子ども自身の言葉		
子ども達は劇やダンスが好きで集まった子ども達ではなかったため、はじめの内はとまどいがあった。脚本が制作されても訂正を申し込まれたりし、自分達の納得するものにしていった。しかし、12人の時間を作るのが非常に難しく、30日以上もの練習の中で全員そろったのがわずか、大人との葛藤もあり、両者が最後に分かり合えたことがすばらしかった。							

< その他 >

分類	内容		人形劇		子ども人形劇団			
	活動主体		実行委員会					
参画の段階	6		その理由	人形作成、舞台公演を子どもたちが行っている。大人はサポートの立場。				
団体名	子ども人形劇団 実行委員会	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL http:// www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen				
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1736	スタッフ	子ども人形劇団実行委員会			
実施時期	平成15年8月	参加人数	20人	対象	小学3年～中学3年生	年齢	8～15歳	
他団体・組織との連携	市内アマチュア人形劇団		活動資金	市からの謝礼(年間35,000円)				
趣 旨	人形製作から舞台発表までを子ども自身の手で行うことにより、自主性・創造性・社会性を育む。							
実施することになったきっかけ	「にんぎょうげきじょう」という人形劇を鑑賞する催しを長年開催しているが、それを見に来た子ども達が人形に興味を持ち自ら出演したいという声が多くなったため。							
事業(活動)内容	夏休み明けから人形制作に取り組み、完成後舞台練習を行い、2月に行われた「きらめき子どもフェスタ」にて旗揚げ公演を行った。その後、4回の公演を行った。(市主催のフェスティバル、市外からの依頼他) 16年度も新たに劇団員を募集し、新たな脚本に取り組んでいる。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	脚本決め、人形制作、舞台公演を行った。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	子ども人形劇団実行委員会		大人					
人形制作、舞台練習での実技指導は、実行委員会(大人)が行った。 会場確保、日程調整、広報周知等は教育委員会が行った。								

分類	内容		ライブ		ライブ in 山北			
	活動主体		実行委員					
参画の段階	6		その理由	機会を大人が提供し、高校生が高校生らしい発想で運営、実施し、重要なポイントの時は大人が指導する。				
団体名	ライブ in 山北 実行委員会	E-Mail	なし	URL なし				
代表者名	山北町青少年指導員 協議会		0465-75-3649 山北町教育委員会 生涯学習課	スタッフ	高校生13人、青少年指導員2人、計15人			
実施時期	12月	参加人数	37人(高校生)	対象	足柄上地区高校生	年齢	16～18歳	
他団体・組織との連携	山北町青少年指導員協議会		活動資金	-				
趣 旨	青少年に活動と交流の場を提供するとともに、地域の人々とのふれあいを深め、青少年の健全育成を推進することを目的とする。							
実施することになったきっかけ	特になし							
事業(活動)内容	山北町中央公民館でライブコンサートを実施。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	出演順序、会場関係、ライティング等高校生が考え、大人の意見を聞き、業者と打ち合わせを行う。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案		大人の関わり		その他	
	山北町青少年指導員協議会		青少年と大人					
高校生のみならず、大人の人にも観てもらえるようにするのが課題である。								

< その他 >

分類	内容	講座		ヒラツカ・ユース・カルチャー・サークル			
	活動主体	青少年の団体					
参画の段階	6	その理由	青少年課企画の講座のため、大筋は青少年課で方向性を示し、その中でメンバーがいるいと決定するため				
団体名	ヒラツカ・ユース・カルチャー・サークル	E-Mail	なし	URL	なし		
代表者名	H16年度代表 横山 篤正		0463-32-7029 平塚市市民部 青少年課	スタッフ	メンバー内で代表・副代表 各種実行委員を決めて運営している。		
実施時期	5月～2月までの 原則毎週木曜日	参加人数	今年度 37人	対象	市内在住・在勤 (高校生は除く)の男女	年齢	18～30歳
他団体・組織との連携	平塚市青少年課		活動資金	平塚市からの委託料及び講座内容により材料費実費負担			
趣 旨	青年が共同学習を通じて、現代社会に対応できる知識や技術の習得と価値観の向上を図ることにより、相互の連帯を深め、自己啓発及び生涯学習への意欲を高揚させる。また、想像力と行動力を持った人材を育成し、積極的な社会参加のきっかけを作る。						
実施することになったきっかけ	同上(昭和40年に青年教室として始まり、いくつかの学級を開設していたが、平成4年に現在の名称に変更し、現在1つのコースを開設している。)						
事業(活動)内容	原則5月～2月までの毎週木曜の19:00～21:00に青少年会館を利用して活動を行う。参加費は原則無料だが、講座内容によっては実費負担とする。学習内容は文化・教養講座としてテーマを大筋で決め、そのテーマに沿った様々な分野の内容を学習するもの、サークルで学習したことなどを活かして野外活動・ボランティア活動・イベント企画をするもの、年間活動のまとめとして文集を作るなどがあげられる。あと、所定のプログラム以外で自主的に企画活動すること、各種講座・研修の情報提供などを勤めている。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	メンバーの自主性を図るため、定期的に話し合いの場を設けている。 またメンバーの中から代表・副代表を選出し、必要に応じて各種実行委員会を設置し、委員のメンバーが中心になって活動を企画・実施してもらう。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	ヒラツカ・ユース・カルチャー・サークル	青少年と大人					
	対象が青年(18歳～30歳)なので、大人との関わりというより、職員との関わりということになる。上記「事業活動(内容)」、「青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか」に記したとおり、原則として講座の講師依頼、会場準備等は職員が行うが、講座内容の希望や各大きいイベント的なことは、メンバー内の委員が計画進行していく。						

分類	内容	国際理解		国際シンポジウム			
	活動主体	シニア・リーダー					
参画の段階	6	その理由	企画、立案、運営について青少年がすべて行っている。				
団体名	小田原市シニア・リーダーズ・クラブ	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL	http:// www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen		
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	-		
実施時期	平成16年2月	参加人数	16人	対象	一般	年齢	中学生以上
他団体・組織との連携	小田原市		活動資金	クラブの予算			
趣 旨	青年海外協力隊の方の講話を聞くことにより、国際交流を図る。						
実施することになったきっかけ	市主催の他行事への参加						
事業(活動)内容	市主催による「地球市民フェスタ」に参加する形で、青年海外協力隊で活躍し、帰国した方を講師に招き、講話をしてもらう。						
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	企画、立案、運営について青少年がすべて行っている。						
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催	企画・立案	大人の関わり		その他		
	小田原市シニア・リーダーズ・クラブ	青少年					
	講師に依頼するときに支援をする。						

< その他 >

分類	内容		活動発表会		青少年と育成者のつどい			
	活動主体		行政					
参画の段階	4		その理由	大人が役割を割り振りし、青少年はそれに従う。				
団体名	青少年問題協議会・教育委員会	E-Mail	seisho@city.odawara.kanagawa.jp	URL http:// www.city.odawara.kanagawa.jp/seishonen				
代表者名	小田原市教育委員会 青少年課		0465-33-1723	スタッフ	市教育委員会			
実施時期	平成15年12月	参加人数	234人	対象	中学生、青少年指導者	年齢	中学生以上	
他団体・組織との連携	小田原市青少年指導員協議会		活動資金	小田原市				
趣 旨	青少年に対する市民の関心と理解を深め、青少年、育成者相互の連携を深める。							
実施することになったきっかけ	市内の青少年と青少年関係者が一堂に会す機会を作る。							
事業(活動)内容	第1部 善行青少年等表彰 善行少年・青年及び優良青少年団体並びに青少年の育成に貢献した者を表彰する。 第2部 中学生の主張発表 中学生が日頃、日常生活や学校生活あるいは団体活動を通して考えていることや感じていることを発表し、広く市民に訴える。							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	市内の中学生から作文を募集し、その中から各校代表1人が中学生の主張発表の場で発表する。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり	その他			
	小田原市教育委員会		大人	準備、運営はすべて大人が行う。				
青少年は、中学生の主張発表の司会と発表を行う。								

分類	内容		子どもの遊び		あそびの学校			
	活動主体		青少年グループ					
参画の段階	7		その理由	活動のほとんどが団体による自主運営である。				
団体名	あそびの学校 運営委員会	E-Mail	seisyonen-center@city.sagamihara.kanagawa.jp	URL http:// www.city.sagamihara.kanagawa.jp/homepage/801904/ylc/index.html				
代表者名	片野寿一		042-751-0091 相模原市青少年学習センター	スタッフ	土曜にこにこクラブ、青山子ども会、シニアリーダーズ・クラブ			
実施時期	毎月第4日曜日	参加人数	30人前後	対象	小学生	年齢	6～12歳	
他団体・組織との連携	特になし		活動資金	事務的消耗品は行政が、材料費は参加者が自己負担				
趣 旨	子どもたちに開放的で自由なあそびの場を提供し、あそびを通して自ら楽しみを作り出しながら、仲間づくりや子ども同士のつながりを深める機会づくりとします。							
実施することになったきっかけ	学校週5日制実施に伴う子ども達の交流の場所づくり							
事業(活動)内容	複数の青年ボランティア団体の手による、体験型の遊びを通じた仲間づくりや子ども同士のつながりを深める場 毎月1回 クラフトやゲーム、科学実験や焼き芋、スポーツなど幅広いジャンルのあそびを実施							
青少年がどのように参画して事業・活動を進めたか	(事業実施団体の活動のほかに)3団体の代表者が集まり、年4回会合を開いて「あそびの学校」のあり方や方向性、今後の計画について話し合っている。実際の活動は運営委員会内の3団体が順番に事業を担当する。団体が合同で企画・実施することもある。							
事業・活動に関わった大人が、青少年とどのように関わり、支援したか	主 催		企画・立案	大人の関わり	その他			
	相模原市青少年学習センター		青少年と大人	団体内にいる大人や青少年学習センター職員が指導・助言を行っている。				
現在は、3団体による運営だが、今後は事業に関心のある個人や団体を発掘・募集・育成をして、事業の拡大や多様な人材の確保につなげたい。								